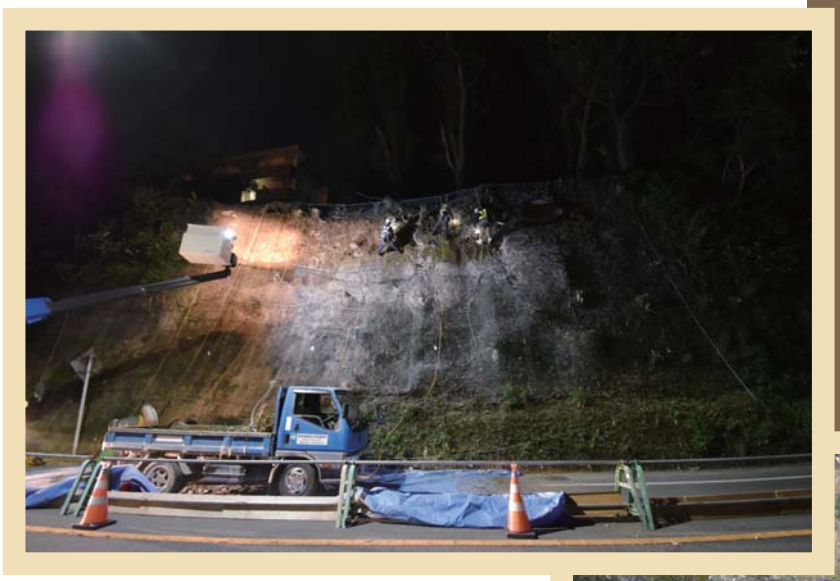
THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES
KUMAMOTO UNIVERSITY/2021

28

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　2021年度



2023　熊本大学埋蔵文化財調査センター

THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES

KUMAMOTO UNIVERSITY/2021

28

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　2021年度

2023　熊本大学埋蔵文化財調査センター

序　文

本年報は，熊本大学埋蔵文化財調査センターが2021年度に実施した調査の概要を報告するものである．

2021年度は，構内における27件の調査を実施した．詳細は本文に譲るが多岐の時代にわたる遺構や遺物が発見され，熊本地域の歴史を知る上で重要な資料や情報が獲得された．

特筆すべき具体的な成果は，以下の通りである．黒髪南地区・工学部研究資料館の給電線工事に伴う調査では，熊本工業高等学校機械実験工場のボイラー煙道の一部が検出された．黒髪北地区・五高記念館の避雷設備設置に伴う調査では，旧第五高等中学校本館の竣工当時の整地面と推定されている敷石遺構が確認された．宇留毛地区では，中世前期の遺物が出土し，遺跡の時期が古墳時代以降に継続することが明らかとなった．本荘北地区においては，熊本大学病院の屋外環境整備に伴う発掘調査で，病院敷地南縁の緑地帯下に遺構面が残存している状況が把握でき，トリアージ棟新営工事に伴う調査で，南側に遺構面が残存している状況が確認された．また，本荘中地区の外灯設備改修工事に伴う立会では，古代の遺物包含層を検出した．さらに，大江地区・薬学部と京町地区・附属中学校グラウンドの防球ネット取設工事では，遺物包含層の堆積が確認された．益城町の地域共同ラボラトリーにおける実験テント撤去の際には，新たな遺跡の発見や旧地形の把握に向け自主的な立会を実施した．

しかし，こうした発見の一方で，今年度も企画展示は新型コロナウイルス感染症の拡大によりやむを得ず中止し，代わりに web による発掘調査情報を配信した．

５年にわたる熊本地震に係る五高記念館，化学実験場，工学部研究資料館の復旧工事、ならびに埋蔵文化財の調査が，今年度ですべて完了した．現在検討中のこれら重要文化財群の保存活用計画に沿い，本センターも今後展示等にも協力していく所存である．関係各位のご理解とご協力をこの場を借りてお願いする次第である．

2023年３月

国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査センター

センター長　新 井 英 永

例　言

1．本書は熊本大学構内において，2021年４月１日から2022年３月末日までおこなわれた熊本大学埋蔵文化財調査センターによる埋蔵文化財の調査および活動内容に関する年次報告書である．

2．本センターの調査番号は，西暦の下２桁と調査開始日時順の番号（１桁の場合はゼロ埋め）の組み合わせによる４桁で表記し，出土遺物や記録類もこれに準じて整理・管理している．

3．遺跡略号は，地区もしくは周知の埋蔵文化財包蔵地名に準じ，以下のようにローマ字で表記した．黒髪町遺跡群黒髪北地区（KKN），同南地区（KKS），宇留毛小磧橋際横穴群宇留毛地区（OZK），本庄遺跡本荘北地区（病院構内）（HJH），同中地区（医学部構内）（HJM），同南地区（医学部保健学科構内）（KHJ），新大江遺跡群薬学部構内（HJP），京町台遺跡教育学部附属小中学校構内（KMS）．

4．遺物への注記は，基本的には，遺跡略号＋調査番号＋出土遺構（位置）の順でおこなった．ただし，遺跡略号を省略する場合もある．

5．本書に掲載した遺物やその他の出土遺物および調査にかかわる記録類はすべて熊本大学埋蔵文化財調査センターにて保管している．

6．黒髪地区の基本土層は『熊本大学構内遺跡発掘調査報告14』，本荘地区の基本土層は『熊本大学構内遺跡発掘調査報告15』に準ずる．なお，黒髪地区においては遺物を含まない褐色砂層（無遺物層），本荘地区においては遺物を含まない褐色砂質土を地山と記載している．

7．本書の執筆は，序文を新井，Ⅰ章を新里，Ⅱ章を大坪・新里・山野・土野，Ⅲ章，付篇および表を新里，英文サマリー・ハングルサマリーを新里・大坪，抄録を新里が担当した．

8．本書の編集は新里がおこなった．

目　次

＜本文目次＞

第Ⅰ章　本年度調査の概要――――――――――――1
第Ⅱ章　調査の記録――――――――――――――5
Ⅱ－１　黒髪北地区――――――――――――――5
1．（黒髪北）五高記念館災害復旧（避雷設備）工事に伴う工事立会（2105）――――――5
2．（黒髪北）屋外給水管等改修工事に伴う工事立会（2107）――――――――――――10
3．（黒髪北）全学教育棟空気調和設備その他改修工事に伴う工事立会（2110）――――――17
4．（黒髪北他）基幹整備（構内交換設備）II期工事に伴う工事立会（2111）――――――17
5．（黒髪北）文法学部本館渡り廊下等設置工事に伴う工事立会（2113）――――――――18
6．（黒髪北）五高記念館南側屋外給水管漏水修繕工事に伴う工事立会（2116）――――――19
7．（黒髪北他）外灯設備改修工事（黒髪北地区分）に伴う工事立会（2119）――――――19
8．（黒髪北他）防犯カメラ配線工事（黒髪北地区分）に伴う工事立会（2120）――――――20
9．（黒髪北）五高記念館石碑移設に伴う工事立会（2122）――――――――――――22
10．（黒髪北）文法学部北棟西側スペース環境整備に伴う工事立会（2125）――――――――22
Ⅱ－２　黒髪南地区――――――――――――――23
1．（黒髪北他）五高記念館他災害復旧工事に伴う工事立会（1823）――――――――――23
2．（黒髪南）中央工場Ａ・Ｂ改修その他工事に伴う工事立会（2106）――――――――――25
3．（黒髪南）中央工場Ａ・Ｂ改修その他機械設備工事に伴う工事立会（2108）――――――25
4．（黒髪南）中央工場Ａ・Ｂ改修その他電気設備工事に伴う工事立会（2109）――――――26
5．（黒髪北他）基幹整備（構内交換設備）II期工事に伴う工事立会（2111）――――――27
Ⅱ－３　宇留毛地区――――――――――――――28
1．（宇留毛）災害復旧工事（法面対策）に伴う工事立会（2102）――――――――――――28
Ⅱ－４　本荘北地区――――――――――――――34
1．（医病）基幹・環境整備（屋外環境整備等）工事（排水溝等）に伴う工事立会（1904）――――――――――――――――――――――34
2．（医病）トリアージ棟新営工事に伴う工事立会（2103）――――――――――――――34
3．（医病）中央診療棟西側貯留槽ポンプアップ排水管取替工事に伴う工事立会（2117）――――――――――――――――――――――36
4．（医病）看護師宿舎前貯留槽ポンプアップ排水管取替工事に伴う工事立会（2121）――37
5．（本荘北）医学総合研究棟屋外排水管補修工事に伴う工事立会（2124）――――――――37
Ⅱ－５　本荘中地区――――――――――――――39
1．（本荘中）昔寿メモリアル収蔵庫植栽工事に伴う工事立会（2112）――――――――――39
2．（黒髪北他）外灯設備改修工事（本荘中地区分）に伴う工事立会（2118）――――――――39
Ⅱ－６　本荘南地区――――――――――――――42
1．（本荘南）駐車場陥没補修工事に伴う工事立会（2101）――――――――――――――42
Ⅱ－７　大江地区――――――――――――――44
1．（大江北）熊本市都市計画事業（大江北）下水道築造工事に伴う工事立会（2104）――44
2．（大江南他）防球ネット取設工事（大江団地南地区分）に伴う工事立会（2114）――――44
Ⅱ－８　京町地区――――――――――――――47
1．（大江南他）防球ネット取設工事（京町団地分）に伴う工事立会（2115）――――――――47
Ⅱ－９　益城地区――――――――――――――49
1．（益城）地域共同ラボラトリー実験用テント撤去に伴う立会調査（2123）――――――――49
第Ⅲ章　活用事業およびその他の関連業務――――――51
1．熊本大学 Web オープンキャンパス2021にて動画配信――――――――――――――51
2．『熊大通信』への取材協力 ――――――――51
3．キャンパスミュージアム構想への参画――51
4．「五高記念館等オープニングセレモニー」公開動画作成への資料提供――――――――52
Summery ――――――――――――――――――53
付篇１　熊本大学埋蔵文化財調査センター規則――――54
付篇２　2021年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織――――――――――――――――――――56
付篇３　熊本大学埋蔵文化財調査センター2021年度調査・研究活動記録――――――――――57

＜図版目次＞

図１　熊本大学敷地（アミ部分）周辺における周知の埋蔵文化財包蔵地（1/25000）――――2
図２　黒髪北地区西半における調査地点配置図（1/2000）――――6
図３　黒髪北地区東半における調査地点配置図（1/2000）――――7
図４　黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000）――――24
図５　宇留毛地区における調査地点配置図（1/2000）――――29
図６　本荘北地区における調査地点配置図（1/2000）――――35
図７　本荘中地区における調査地点配置図（1/2000）――――40
図８　本荘南地区における調査地点配置図（1/2000）43
図９　大江地区における調査地点配置図（1/2000）―45
図10　京町地区における調査地点配置図（1/2000）―47
図11　益城地区における調査地点配置図（1/2000）―49
図12　『熊大通信』vol.82掲載記事見本　――――51
図13　熊本大学キャンパスミュージアム構想のパンフレット見本　――――52

＜写真目次＞

写真１　Ａ地点建物Ｌ字角重機掘削作業風景（東より）――――8
写真２　Ａ地点近代敷石検出状況（西より）――――8
写真３　Ａ地点試掘トレンチ北端掘削状況（南より）――――8
写真４　Ａ地点トレンチ重機掘削作業風景（西より）――――8
写真５　Ａ地点黒褐色土検出状況（北東より）――――8
写真６　Ａ地点東端掘削状況（南より）――――8
写真７　Ａ地点検出近代板状石材（西より）――――8
写真８　Ｂ地点重機掘削作業風景（東より）――――8
写真９　Ｂ地点旧銅板設置箇所南壁土層断面（北より）――――9
写真10　Ｂ地点黒褐色土検出状況（西より）――――9
写真11　Ｃ地点重機掘削作業風景（東より）――――9
写真12　Ｃ地点掘削状況（東より）――――9
写真13　Ｃ地点北壁土層断面（南より）――――9
写真14　Ｃ地点近代敷石検出状況（南より）――――9
写真15　Ｉ１区南端重機掘削作業風景（北より）――10
写真16　Ｉ１区南側掘削状況（南より）――――10
写真17　Ｉ２区西端掘削状況（北より）――――10
写真18　Ｉ３区東側掘削状況（西より）――――10
写真19　Ｉ３区西側掘削状況（西より）――――11
写真20　Ｉ４区重機掘削作業風景（南より）――――11
写真21　Ｉ４区南側掘削状況（南より）――――11
写真22　Ｉ４区中央部掘削状況（南より）――――11
写真23　Ｉ４区北側掘削状況（南より）――――11
写真24　Ｉ４区北側西壁土層断面（東より）――――11
写真25　Ｉ４区北端掘削状況（西より）――――11
写真26　Ｉ５区重機掘削作業風景（北東より）――――11
写真27　Ｉ５区西側掘削状況（西より）――――12
写真28　Ｉ５区西側北壁土層断面（南より）――――12
写真29　Ｉ５区東側掘削状況（東より）――――12
写真30　Ｉ６区重機掘削作業風景（北より）――――12
写真31　Ｉ６区掘削状況（北より）――――12
写真32　Ｉ６区南側掘削状況（東より）――――12
写真33　Ｉ６区黒褐色土検出状況（北より）――――12
写真34　Ｉ６区黒褐色土掘り下げ後状況（北より）―12
写真35　Ⅱ１区北側掘削状況（西より）――――13
写真36　Ⅱ１区東側掘削状況（西より）――――13
写真37　Ⅱ２区重機掘削作業風景（西より）――――14
写真38　Ⅱ２区掘削状況（東より）――――14
写真39　Ⅱ３区黒褐色土層検出状況（北西より）――14
写真40　Ⅱ３区遺構検出状況（北東より）――――14
写真41　Ⅱ３区遺構完掘状況（北東より）――――14
写真42　Ⅱ３区南壁土層断面（北東より）――――14
写真43　Ⅱ４区中央部掘削状況（西より）――――14
写真44　Ⅱ４区東側掘削状況（東より）――――14
写真45　Ⅲ１区重機掘削作業風景（北より）――――15
写真46　Ⅲ１区北側掘削状況（北より）――――15
写真47　Ⅲ１区南側掘削状況（北西より）――――15
写真48　Ⅲ２区掘削状況（東より）――――15
写真49　Ⅲ３区重機掘削作業風景（西より）――――16
写真50　Ⅲ３区掘削状況（東より）――――16
写真51　Ⅲ４区掘削状況（西より）――――16
写真52　作業風景（南西より）――――17
写真53　掘削完了状況（南より）――――17
写真54　本柱設置地点掘削完了状況（北より）――――17
写真55　支柱設置地点掘削完了状況（東より）――――17
写真56　１トレンチ掘削状況（南より）――――18
写真57　１トレンチ北壁土層断面（南より）――――18
写真58　２トレンチ重機掘削作業風景（南より）――18
写真59　２トレンチ南側掘削状況（東より）――――18
写真60　２トレンチ掘削状況（南より）――――18
写真61　作業風景（南より）――――19
写真62　既設管検出状況（南より）――――19

写真63　調査区近景（西より）――19
写真64　①作業風景（南より）――19
写真65　①遺構完掘状況（東より）――20
写真66　②ａ遺構検出状況（西より）――20
写真67　③ｃ土層断面（南より）――20
写真68　カメラＡ設置地点近景（南西より）――21
写真69　カメラＡ設置地点掘削完了状況（西より）――21
写真70　カメラＣ設置地点掘削完了状況（東より）――21
写真71　カメラＤ設置地点掘削完了状況（北より）――21
写真72　カメラＥ設置地点掘削完了状況（南西より）――21
写真73　カメラＦ設置地点掘削完了状況（南より）――21
写真74　カメラＧ設置地点掘削完了状況（南東より）――21
写真75　重機掘削作業風景（北より）――22
写真76　トレンチ掘削状況（西より）――22
写真77　トレンチ東壁土層断面（西より）――22
写真78　廃棄物撤去作業状況（北西より）――22
写真79　①②調査区近景（東より）――23
写真80　①煉瓦構造物検出状況（南東より）――23
写真81　外回り旧ボイラー煙道検出状況（北より）――23
写真82　②掘削完了状況（東より）――23
写真83　②調査区近景（北より）――25
写真84　②土層断面（東より）――25
写真85　②掘削完了状況（北より）――25
写真86　調査区近景（西より）――26
写真87　①土層断面（北より）――26
写真88　②掘削完了状況（北より）――26
写真89　①調査区近景（東より）――26
写真90　①掘削完了状況（東より）――26
写真91　②掘削完了状況（南より）――26
写真92　支柱設置地点掘削完了状況（南より）――27
写真93　通信用配管路設置地点掘削完了状況（東より）――27
写真94　調査地点崖法面（東より）――30
写真95　調査地点崖上斜面（北より）――30
写真96　調査地点北東横穴玄室内部（南東より）――30
写真97　調査地点北東防空壕内部（南東より）――30
写真98　Ⅰ区⑰ドリル穿孔作業風景（東より）――30
写真99　Ⅰ区②掘削状況（南西より）――30
写真100　Ⅰ区④掘削状況（北東より）――30
写真101　Ⅰ区⑦掘削状況（南東より）――30
写真102　Ⅰ区⑬掘削状況（南東より）――31
写真103　Ⅰ区⑮掘削状況（南東より）――31
写真104　Ⅰ区トレンチ４掘削状況（北東より）――31
写真105　Ⅰ区５トレンチ遺構検出状況（南東より）――31
写真106　Ⅰ区５トレンチ掘削状況（南より）――32
写真107　Ⅰ区６トレンチ掘削状況（西より）――32
写真108　Ⅲ区掘削作業風景（南東より）――32
写真109　④－29調査区掘削完了状況（北より）――34
写真110　④－30調査区完掘状況（西より）――34
写真111　Ｃ地点掘削完了状況（南より）――36
写真112　Ｄ地点遺物包含層検出状況（北より）――36
写真113　トリアージ棟新営工区掘削完了状況１（北東より）――36
写真114　トリアージ棟新営工区掘削完了状況２（北東より）――36
写真115　作業風景（西より）――36
写真116　破損配管確認状況（南より）――36
写真117　出土した円礫（南東より）――37
写真118　既設管検出状況（西より）――37
写真119　漏水管検出状況（北より）――37
写真120　掘削作業状況（北より）――38
写真121　掘削完了状況（北より）――38
写真122　調査区近景（南東より）――39
写真123　①掘削完了状況（南東より）――39
写真124　②掘削完了状況（南東より）――39
写真125　①調査区近景（西より）――41
写真126　①土層断面（東より）――41
写真127　②ｃ作業風景（南東より）――41
写真128　②ｃ掘削完了状況（南より）――41
写真129　②ｃ土層断面（東より）――41
写真130　③土層断面（南より）――41
写真131　Ａ地点重機掘削作業風景（南西より）――42
写真132　Ａ地点掘削状況（南より）――42
写真133　Ｂ地点掘削状況（西より）――42
写真134　自主立会地点掘削完了状況（東より）――44
写真135　①調査区近景（東より）――44
写真136　①東半土層断面（北より）――44
写真137　グラウンド三塁側掘削完了状況（東より）――46
写真138　グラウンド三塁側遺物包含層検出状況（北より）――46
写真139　グラウンド三塁側掘削状況（南西より）――46
写真140　グラウンドバックネット側掘削完了状況（南より）――46
写真141　防球ネット基礎削岩作業風景（北より）――46
写真142　防球ネット基礎撤去作業風景（北より）――46
写真143　調査区近景（北より）――48
写真144　①帯状硬化面完掘状況（南西より）――48

写真145　②溝状遺構完掘状況（東より）――――――48
写真146　作業風景（東北東より）――――――――――50
写真147　水槽埋設状況（西南西より）――――――――50
写真148　南壁側の底盤除去状況（北北西より）――――50
写真149　西壁側の底盤除去状況（東北東より）――――50

＜表目次＞

表１　熊本大学敷地と周知の埋蔵文化財包蔵地との対応関係（アミ部分は本年度調査した地区を示す）――1
表２　2021年度調査一覧表――――――――――――――――――3

第Ⅰ章　本年度調査の概要

熊本大学埋蔵文化財調査センター（以下，本センター）が実施した2021（令和３）年度調査の内訳は，発掘調査０件，工事立会27件（黒髪北・南地区，宇留毛地区，本荘北・中・南地区，大江地区，京町地区，益城地区）であった（表２）．このうち1823調査地点は一昨々年度，1904調査地点は一昨年度から継続する工事に伴い立会した箇所で，残りは本年度に新規で実施された開発事業および災害復旧関係事業の調査地点となる．

工事種別ごとの調査内訳は，排水溝等の設置関係（1904調査地点），災害復旧関係（1823・2102・2015調査地点），建物の新営関係（2103調査地点），建物の改修関係（2106・2108・2109調査地点），給・排水管の改修・修繕・取替・補修関係（2107・2116・2117・2124調査地点），基本設備の設置・取設・改修関係（2110・2111・2113・2114・2115・2118・2119・2120調査地点），陥没補修や環境整備関係（2101・2112・2122・2125調査地点），熊本市による下水道築造工事対応（2104調査地点）となる．また，地域共同ラボラトリーにおける実験用テント撤去（2123調査地点）では，周知の埋蔵文化財包蔵地外ながらも自主的な工事立会を実施した．

特筆される調査成果は以下の通りである．

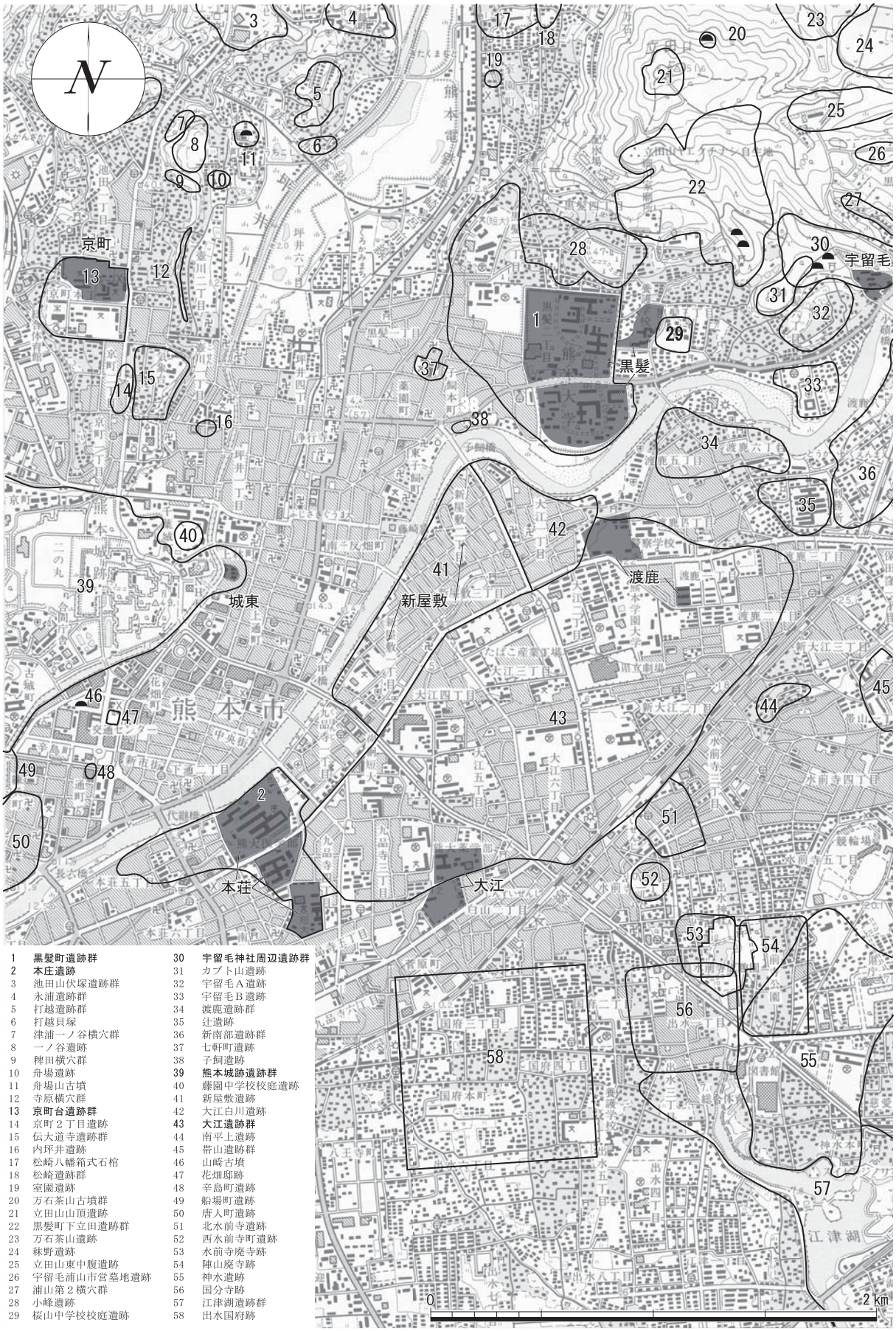
黒髪北・南地区における1823・2015調査地点は，2016（平成28）年４月の熊本地震により大きな被害を受けた国指定重要文化財（建造物）の復旧工事の工区内に当たり，前者は工学部研究資料館の給電線工事，後者は五高記念館の避雷設備設置に伴って立会を実施したものである．1823調査地点では，遺存状況は良好でなかったものの，熊本工業高等学校機械実験工場の北側に設置されていたボイラー煙道の一部が検出された．2015調査地点で確認された敷石遺構は，旧第五高等中学校本館の竣工当時の整地面と推定されている．

宇留毛地区では令和２年７月豪雨による法面崩落の災

表１　熊本大学敷地と周知の埋蔵文化財包蔵地との対応関係（アミ部分は本年度調査した地区を示す）

No.	団地・地区名（学部・施設名）	所　在　地	遺跡名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備　　考
1	黒髪北（文学部･法学部･教育学部等）	熊本市中央区黒髪2丁目40-1	黒髪町遺跡群	集落址・墓地	縄文・弥生 奈良・平安 近世・近代	
2	黒髪南（理学部，工学部等）	熊本市中央区黒髪2丁目39-1				
3	宇留毛（学生寄宿舎、国際交流会館，職員宿舎）	熊本市中央区黒髪7丁目763	宇留毛神社周辺遺跡群 宇留毛小磧橋際横穴群	散布地・城館跡・墓地	弥生・奈良 古墳・平安 中世	
4	本荘北（病院・医学部等）	熊本市中央区本荘1丁目1-1	本庄遺跡（熊大病院敷地遺跡）	散布地・集落址・墓地	縄文・弥生 古墳・奈良 平安・中世 近世・近代	
5	本荘中（発生医学研究所，ヒトレトロウイルス学共同研究センター，生命資源研究・支援センター等）	熊本市中央区本荘2丁目2-1				
6	本荘南（医学部保健学科等）	熊本市中央区九品寺4丁目24-1				周辺遺跡
7	大江北（薬学部等）	熊本市中央区大江本町5-1	大江遺跡群	官衙址	奈良・平安	周辺遺跡
8	大江南（薬学部グラウンド，職員宿舎等）	熊本市中央区大江本町5-1 熊本市中央区白山１丁目６-54				
9	渡鹿（課外活動施設）	熊本市中央区渡鹿4丁目1-1		集落址		
10	渡鹿地区２（職員宿舎）	熊本市中央区渡鹿1丁目16				
11	京町（附属小，附属中学校，附属教育実践総合センター）	熊本市中央区京町本丁5-12	京町台遺跡	集落址	弥生・近世	
12	城東町（附属幼稚園）	熊本市中央区城東町5-9	熊本城跡遺跡群	城館址・熊本城関連遺構	近世	
13	新屋敷１（職員宿舎）	熊本市中央区新屋敷1丁目9-11	新屋敷遺跡	集落址	奈良・平安	
14	新屋敷２（職員宿舎）	熊本市中央区新屋敷2丁目15-3				
15	新南部（教育学部新南部農場）	熊本市東区新南部6丁目5-8	新南部遺跡群	散布地	縄文・弥生	
16	益城（熊本創生推進機構地域共同ラボラトリー）	上益城郡益城町田原2081-7	上面ノ平遺跡	散布地	縄文～中世	
17	上天草市松島町（くまもと水環境・減災研究教育センター合津マリンステーション）	上天草市松島町合津6061	前島貝塚	集落址	縄文・弥生	1995年度の調査で貝塚でないことが判明

※遺跡の種類、時代は近年の調査成果を反映させた。



1	**黒髪町遺跡群**	30	**宇留毛神社周辺遺跡群**
2	**本庄遺跡**	31	カブト山遺跡
3	池田山伏塚遺跡群	32	宇留毛Ａ遺跡
4	永浦遺跡群	33	宇留毛Ｂ遺跡
5	打越遺跡群	34	渡鹿遺跡群
6	打越貝塚	35	辻遺跡
7	津浦一ノ谷横穴群	36	新南部遺跡群
8	一ノ谷遺跡	37	七軒町遺跡
9	稗田横穴群	38	子飼遺跡
10	舟場遺跡	39	**熊本城跡遺跡群**
11	舟場山古墳	40	藤園中学校校庭遺跡
12	寺原横穴群	41	新屋敷遺跡
13	**京町台遺跡群**	42	大江白川遺跡
14	京町２丁目遺跡	43	**大江遺跡群**
15	伝大道寺遺跡群	44	南平上遺跡
16	内坪井遺跡	45	帯山遺跡群
17	松崎八幡箱式石棺	46	山崎古墳
18	松崎遺跡群	47	花畑邸跡
19	室園遺跡	48	辛島町遺跡
20	万石茶山古墳群	49	船場町遺跡
21	立田山山頂遺跡	50	唐人町遺跡
22	黒髪町下立田遺跡群	51	北水前寺遺跡
23	万石茶山遺跡	52	西水前寺町遺跡
24	秣野遺跡	53	水前寺廃寺跡
25	立田山東中腹遺跡	54	陣山廃寺跡
26	宇留毛浦山市営墓地遺跡	55	神水遺跡
27	浦山第２横穴群	56	国分寺跡
28	小峰遺跡	57	江津湖遺跡群
29	桜山中学校校庭遺跡	58	出水国府跡

図１　熊本大学敷地（アミ部分）周辺における周知の埋蔵文化財包蔵地（1/25000）

表２　2021年度調査一覧表

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
21・4.1～28	1904	（医病）基幹・環境整備（屋外環境整備等）工事（排水溝等）	工事立会	6231.1㎡	縄文・古代・近世・近代	溝・土坑・ピット，土師器・須恵器
21・10.21	1823	（黒髪北他）五高記念館他災害復旧工事	工事立会	88.16㎡ (17.27)㎡	古代・近世・近代	旧ボイラー
21・4.28	2101	（本荘南）駐車場陥没補修工事	工事立会	37.7㎡ (27.7)㎡	近代	陶磁器
21・4.19～6.29	2102	（宇留毛）災害復旧工事（法面対策）	工事立会	170.2㎡	古墳・中世・近代	横穴墓・溝・ピット・防空壕，土師器・須恵器・瓦質土器・青磁・鉄器
21・6.10,14. 9,7～10,13	2103	（医病）トリアージ棟新営工事	工事立会	714.5㎡	近世	陶磁器
21・6.14・7.2・8.31	2104	熊本市都市計画事業（大江北）下水道築造工事	工事立会 （自主立会）	29.7㎡ (2.89)㎡	近世・近代	陶磁器・ガラス片
21・9.28～10.19	2105	（黒髪北）五高記念館災害復旧（避雷設備）工事	工事立会	202.9㎡	古代・近代	石敷，土師器・須恵器・瓦
21・10.14,25,26・11.1	2106	（黒髪南）中央工場Ａ・Ｂ改修その他工事	工事立会	494.6 (104.91)㎡	なし	なし
21・10.25～ 22・1.26	2107	（黒髪北）屋外給水管等改修工事	工事立会	597.5㎡	古代・近世・近代	土師器・須恵器・陶磁器・泥面子・煉瓦
21・10.25,27	2108	（黒髪南）中央工場Ａ・Ｂ改修その他機械設備工事	工事立会	262.6 (20.4)㎡	なし	なし
21・11.1・ 12.13,14	2109	（黒髪南）中央工場Ａ・Ｂ改修その他電気設備工事	工事立会	17.53 (17.03)㎡	なし	なし
21・11.8	2110	（黒髪北）全学教育棟空気調和設備その他改修工事	工事立会	4㎡	なし	なし
21・11.15,18	2111	（黒髪北他）基幹整備（構内交換設備）Ⅱ期工事	工事立会	33㎡	近世・近代	陶磁器
21・11.24	2112	（本荘中）昔寿メモリアル収蔵庫植栽工事	工事立会	36.5㎡ (0.76)㎡	なし	なし
21・12.8	2113	（黒髪北）文法学部本館渡り廊下等設置工事	工事立会	14.8㎡	なし	なし
22・1.20,21,24,25	2114	（大江南他）防球ネット取設工事（大江団地南地区分）	工事立会	368.2㎡	古代・近世	土師器・陶器
22・1.27,28・2.2	2115	（大江南他）防球ネット取設工事（京町団地分）	工事立会	49.1 (35.03)㎡	古代・近世	溝・硬化面，土師器・須恵器・陶磁器
22・1.13	2116	（黒髪北）五高記念館南側屋外給水管漏水修繕工事	工事立会	2.8 (1.54)㎡	なし	なし
22・1.28	2117	（医病）中央診療棟西側貯留槽ポンプアップ排水管取替工事	工事立会	8.75㎡	なし	なし
22・2.7,8,14	2118	（黒髪北他）外灯設備改修工事（本荘中地区分）	工事立会	32.01㎡ (27.7)㎡	古代・近世・近代	土師器・須恵器・陶磁器・煉瓦
22・2.9,10,15	2119	（黒髪北他）外灯設備改修工事（黒髪北地区分）	工事立会	33.6㎡ (29.8)㎡	古代・近世	ピット・溝，土師器・須恵器・陶磁器
22・2.15～17	2120	（黒髪北他）防犯カメラ配線工事（黒髪北地区分）	工事立会	62.24㎡	なし	なし
22・2.28	2121	（医病）看護師宿舎前貯留槽ポンプアップ排水管取替工事	工事立会	67.75㎡ (32.4)㎡	なし	なし
22・3. 1	2122	（黒髪北）五高記念館石碑移設	工事立会	6.3㎡ (1.96)㎡	なし	なし
22・3.14,17,25	2123	地域共同ラボラトリー実験用テント撤去	工事立会 （自主立会）	299.7㎡	なし	なし
22・3.22,23	2124	（本荘北）医学総合研究棟屋外排水管補修工事	工事立会	3.6㎡	なし	なし
22・3.24	2125	（黒髪北）文法学部北棟西側スペース環境整備	工事立会	144㎡	なし	なし

害復旧工事として防護ネットの設置が計画されたため，学生寄宿舎敷地内にある宇留毛小磧橋際横穴墓の現状を確認する目的で現地踏査と測量に基づく横穴墓の分布図作成に着手した．その成果図と防護ネット固定アンカーの設置計画図を比較しながら協議を行なった結果，目視確認した遺構への影響がおよばないよう設置計画を変更することで合意し，また新たな掘削箇所については横穴墓の有無を確認するための試掘調査を実施することで調整した．試掘調査の結果，２箇所のトレンチ（④と⑤）から中世前期の遺物が出土し，遺跡の時期が古墳時代以降に継続することが明らかとなった．

本荘北地区の1904調査地点は，熊本大学病院の屋外環境整備に伴う工事の対象区に該当し，本年度は現在の正門付近が調査の対象となった．これまでと同様，工事掘削の立会時，包含層や遺構面の残存が確認され，その保存に影響がおよぶ区域の発掘調査を実施した．調査の結果，ピット等が検出され，病院敷地南縁の緑地帯下に遺構面が残存している状況が把握できた．同地区におけるトリアージ棟の新営工事は医学部臨床研究棟の跡地内に当たり，その取り壊し工事の工区（1907・1914調査地点）南側に遺構面が残存している状況が確認された．本荘中地区の外灯設備工事改修工事に伴う立会では，古代の遺物包含層を検出している．

大江地区と京町地区では薬学部および附属中学校グラウンドの防球ネット取設工事が実施され，両者ともに遺物包含層の堆積が確認された．

2123調査地点は，益城町に位置する地域共同ラボラトリーにおける実験テント撤去に伴う工事の立会箇所で，対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地外にあったが，付近に遺跡が所在することから自主的な立会を実施した．今回遺物・遺構等は確認されなかったが，包蔵地外といえども新たな遺跡の発見や旧地形の把握に向け，自主的な立会の実施は今後も必要であろう．

熊本地震と関連する工事（仮設建物の取設，災害復旧工事）に係る埋蔵文化財の調査は５年の歳月を要したが，今年度でそれらの全てが完了し，2022年３月23日，五高記念館，化学実験場，工学部研究資料館は無事に竣工の日を迎えた．現在，これら重要文化財群の保存活用計画が検討されているが，本センターが蓄積している近代建造物の調査成果を積極的に活用すべく，今後展示等にも協力していく所存である．関係各位のご理解とご協力を賜りたい．

第Ⅱ章　調査の記録

Ⅱ－１　黒髪北地区

１．（黒髪北）五高記念館災害復旧（避雷設備）工事に伴う工事立会（2105）

＜調査期間＞

2021年９月28日～10月19日

＜調査面積＞

202.9㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

黒髪北地区の五高記念館の避雷針設置に伴う工事に係る工事立会を実施した．調査地点は五高記念館の北西のＡ地点，北東のＢ地点，南西のＣ地点の計３か所である．工事内容は接地銅板の埋設とアース棒の設置の２種類に分けられる．避雷針の施工手順と重機の動線の関係から，各地点の施工範囲を一括で掘削できないため，アース棒設置に係るトレンチは２～３ｍ間隔で掘削し，施工を実施した後に埋め戻し，再度掘削を続けるという手順で作業を進めた．また，アース棒設置の予定施工深度は0.8ｍだが，避雷針に必要な抵抗値が得られた時点で掘削を終了した．1360調査地点の工事立会の際，五高記念館の建物際では煉瓦基礎やコンクリート基礎が確認されたため，本立会ではこれらの現状に変更がないよう建物壁から40㎝の区間は極力掘削を避けた．

Ａ地点では，接地銅板の埋設位置を確定するために，五高記念館西翼の北側突出部分のＬ字角から東西幅１～1.4ｍ，南北長3.3ｍの範囲を試掘した．この際，試掘範囲の南東側１ｍ×30㎝の範囲で，地表下20～25㎝より，拳大から人頭大の扁平な川原石が密に敷かれた状態で検出された．この敷石は五高記念館竣工当時の整地された地表面の可能性があったため，本敷石部分の掘削はせず，写真記録を実施した後，現地にて埋め戻して保存した．今後も建物際ではこのような敷石が検出されることが予想されたため，試掘箇所北側で検出された東西に走る既設の排水管とヒューム管の直上にあたる部分を掘削することで，敷石を避けて銅板を設置することとした．試掘範囲の北側では銅板設置のために90㎝×50㎝，深さ1.7ｍの空間が必要であった．そのため試掘トレンチ北側を１ｍ×1.4ｍ広げ，ヒューム管の北側を掘削した．本掘削範囲は地表下60㎝まで全て撹乱しており，さらに南半はヒューム管の設置のため，地表下1.7ｍまで撹乱していた．一方北側は地表下1.4ｍまで撹乱しており，こちらにも近代の構造物が埋設されていると想定された．本試掘トレンチ中央ではこれら南北の撹乱の間に地表下80㎝で古代の遺物包含層と考えられる黒褐色土が30㎝×60㎝の範囲で確認できた．本土層を人力で掘削したところ１㎝に満たない土師器片３点が出土したのみであった．地表下1.3ｍでは黒髪北地区で遺構面として認識されている褐色土層が部分的に検出されたが本掘削範囲に遺構は検出できなかった．その後，施工深度である1.7ｍまで重機により慎重に掘削したが，遺物や遺構は検出されていない．

本試掘範囲北側に銅板を埋設施工した後，アース棒設置に係るトレンチを掘削した．検出したヒューム管の直上に沿って，試掘トレンチ西端から幅0.7～１ｍ，東西方向に長さ22ｍの範囲を地表下0.7ｍまで掘削した．掘削範囲の西半は近代の管などにより北側，あるいは南半分が撹乱していたが，東半の一部では古代の遺物包含層と思われる黒褐色土が地表下0.6～0.7ｍで検出された．そのため地表下0.6ｍで重機掘削を止め，必要に応じて0.7ｍまで人力で掘削し，須恵器や土師器片を取り上げた．トレンチ西端から14.8ｍ東の位置からは，樹根やマンホールなどの支障物を避け，調査トレンチをやや北側へずらした．トレンチ西端から22ｍ東に位置する東端では建物のある南方向へ南北4.5ｍ×0.7ｍの範囲を掘削したが一部を除き撹乱していた．以上でＡ地点の掘削を終えている．

Ａ地点ではトレンチ西端から1.6ｍ東の位置において地表下20㎝で，幅60㎝，厚み20㎝の板状石材が建物に直行する形で２つ検出された．両石材は山砂によって埋納されており，地表面に対して並行には据えられておらず，「ハ」の字状に設置されていた．石材の性格は不明だが，本工事ではアース線を本石材の上に通すことができ，施工上の問題がなかったため簡単な写真撮影と位置記録のみ実施し埋め戻した．Ｂ地点でも同様の石材が検出されており，管を埋納した蓋石と考えられる．

Ｂ地点では，はじめに五高記念館東翼突出部のＬ字角から40㎝西の位置より北へ3.3ｍ×0.6ｍを試掘した．ここでは旧避雷針の銅線と銅板が地下に埋設されており，その掘方内を再掘削した場所に新規銅板を設置することにした．試掘範囲の北端２ｍ×1.1ｍの位置で地表下1.65ｍから旧銅板が検出できたため，この直上にて施工を実

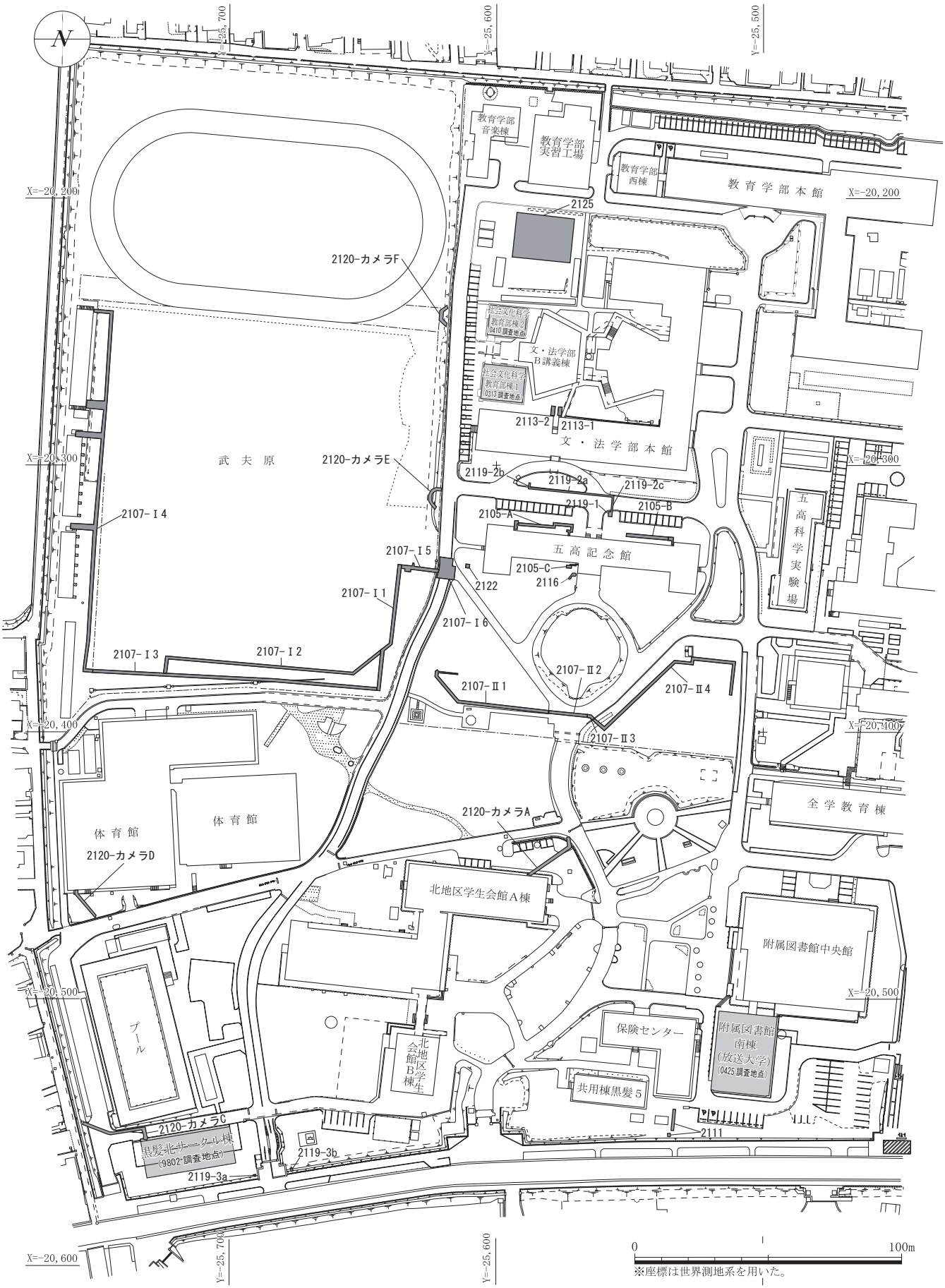


図２　黒髪北地区西半における調査地点配置図（1/2000）

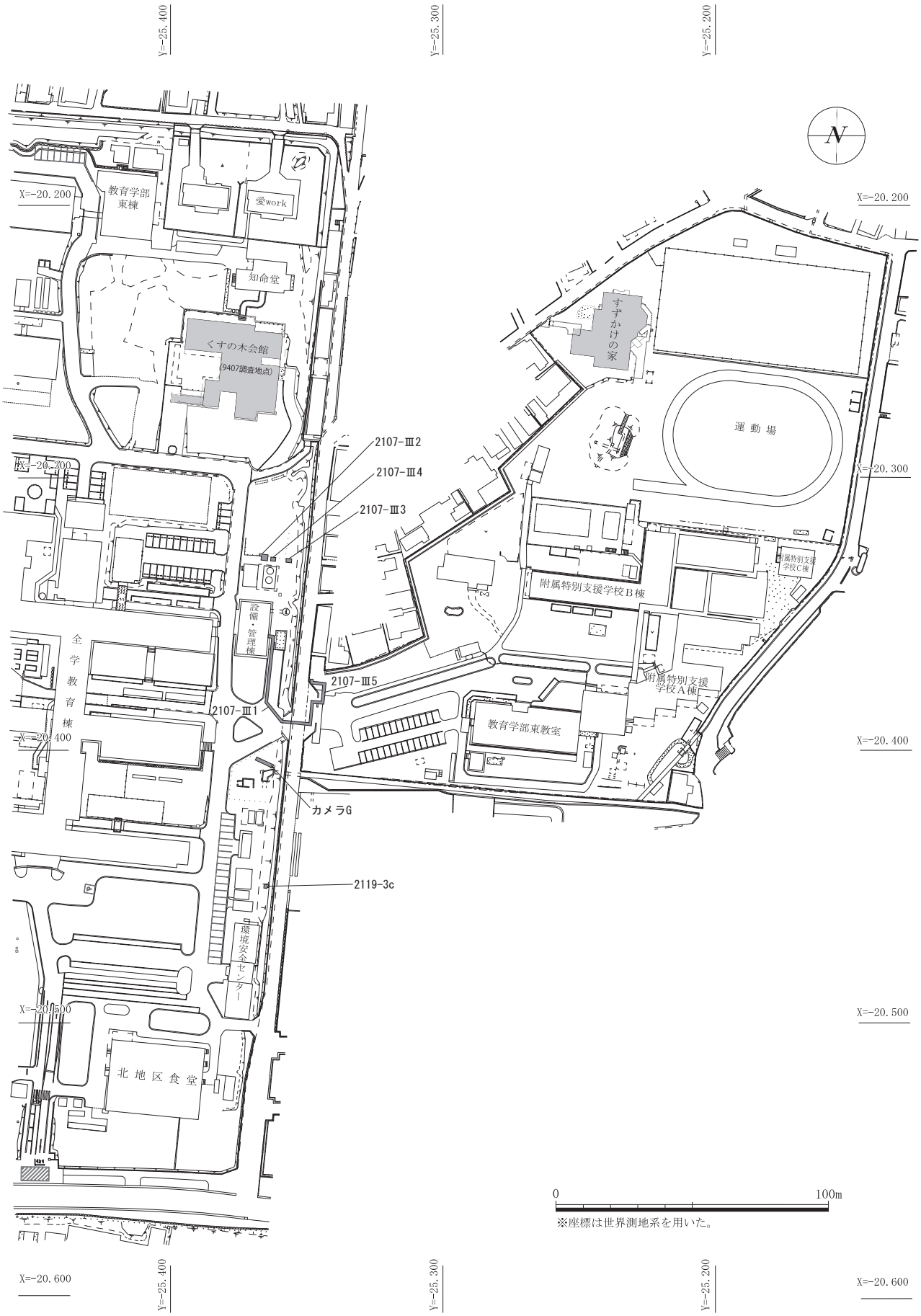


図３　黒髪北地区東半における調査地点配置図（1/2000）

写真１　Ａ地点建物Ｌ字角重機掘削作業風景（東より）

写真２　Ａ地点近代敷石検出状況（西より）

写真３　Ａ地点試掘トレンチ北端掘削状況（南より）

写真４　Ａ地点トレンチ重機掘削作業風景（西より）

写真５　Ａ地点黒褐色土検出状況（北東より）

写真６　Ａ地点東端掘削状況（南より）

写真７　Ａ地点検出近代板状石材（西より）

写真８　Ｂ地点重機掘削作業風景（東より）

写真９　Ｂ地点旧銅板設置箇所南壁土層断面（北より）

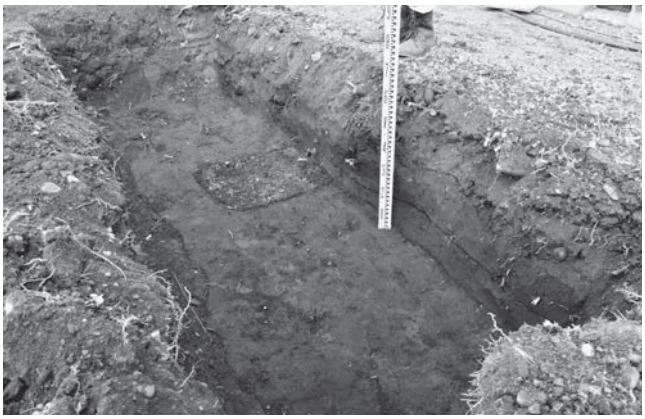


写真10　Ｂ地点黒褐色土検出状況（西より）

写真11　Ｃ地点重機掘削作業風景（東より）

写真12　Ｃ地点掘削状況（東より）

写真13　Ｃ地点北壁土層断面（南より）

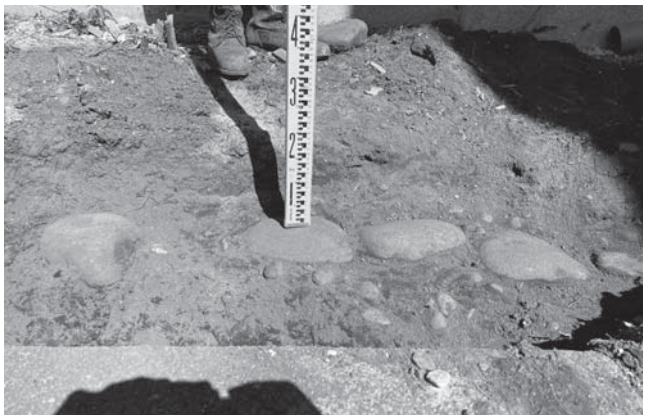


写真14　Ｃ地点近代敷石検出状況（南より）

施した．続いて試掘箇所から西に向かってアース棒設置用のトレンチ掘削を進めたところ，地表下20㎝で幅0.6m，厚さ20㎝の扁平石材が検出された．この石材の下には地表下50㎝でヒューム管が検出できたため，石材は水槽の蓋である可能性が高い．Ａ地点の板状石材と同様の位置，サイズであることから，Ａ地点の石材も設置後に動かされ，その場に山砂で埋め戻されたものと推測される．トレンチ東端から17.6mの位置まで幅1.2～1.3mを掘削したところ，各所において地表下0.45～0.5mで古代の遺物包含層である黒褐色土層を検出した．必要に応じて10㎝程掘削したところ，少量の土師器・須恵器片が出土している．

Ｃ地点では五高記念館西翼突出部角から1.5m南，２m西に位置する既設汚水桝の西側1.9m×１mの範囲に銅板用のトレンチを設けた．地表下0.55mで古代の遺物包含層らしき黒褐色土を検出した．また，トレンチ西側では黒褐色土層上面において幅0.8m程の近世．近代に相当すると思われる遺構が検出できたが掘削は実施しなかった．汚水桝北側では建物壁から南に１m，地表下0.1～0.15mで川原石の敷石が５つ並んだ状態で検出された．周囲には５㎝程の円礫が散在しており，Ａ地点の状況

とよく類似する．ガラスなども混じることから，五高期の床面であると想定される．当初予定していたアース棒設置用のトレンチは施工の必要がなくなったため実施していない．

２．（黒髪北）屋外給水管等改修工事に伴う工事立会（2107）

＜調査期間＞

2021年10月25日～2022年１月26日

＜調査面積＞

597.5㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎，新里亮人，士野雄貴．

＜調査概要・結果＞

黒髪北地区の屋外給水管等改修工事に伴う工事立会を実施した．工事個所は武夫原周辺のⅠ地区，五高記念館南側のⅡ地区，そして設備・管理棟周辺のⅢ地区の３箇所に分かれる．

【Ⅰ地区】

Ⅰ地区は武夫原の東辺中央部から南東端にかけてのⅠ１区，Ⅰ１区南側屈曲部で分岐し西方向に延びるⅠ２区，南辺に並行するⅠ３区，武夫原の西辺に並行するⅠ４区，Ⅰ１区の北端から東へ延びるⅠ５区，武夫原の東側道路部分に位置するⅠ６区の計６カ所に分けて説明を行なう．このうちⅠ１・２地区の一部は旧給水管の撤去と新規給水管の設置に伴う掘削である．また，Ⅰ３～５区は給水管と桝の設置に伴う掘削で，Ⅰ５区は既設配管の撤去も実施した．

Ⅰ１区は，武夫原東側入口と五高記念館の間を南北に通る道路の境から西へ15.5mの位置を起点とし，南へ29.2m，そこから南西方向へ3.7m屈曲し，さらに南へ15mのびる．いずれも幅0.5～0.6m，地表下0.5～0.55mを掘削した．本区では既設配管をはずしたところに新規配管を埋設予定だったが，工事立会中に既設配管の位置が申請図面よりも大きく北側にずれることが判明したため，本学施設部を通して熊本市市民文化局文化財課に図面変更の連絡を行なっている．本地区における土層は，地表下0.30mまでがバラスを含む現代整地土，0.3mから0.4～0.5mまでがガラスや近代磁器などを含む現代埋土，0.4～0.55mで近世・近代の陶磁器を含む暗褐色土層の順に堆積している．掘削は暗褐色土層の上面から5～10㎝を掘削するに留まっており，古代の遺物包含層までは到達せず，遺構の検出はなかった．

Ⅰ２区はⅠ１区の屈曲部南端から12.5m南西の地点で

写真15　Ⅰ１区南端重機掘削作業風景（北より）

写真17　Ⅰ２区西端掘削状況（北より）

写真16　Ⅰ１区南側掘削状況（南より）

写真18　Ⅰ３区東側掘削状況（西より）

写真19　Ⅰ３区西側掘削状況（西より）

写真23　Ⅰ４区北側掘削状況（南より）

写真20　Ⅰ４区重機掘削作業風景（南より）

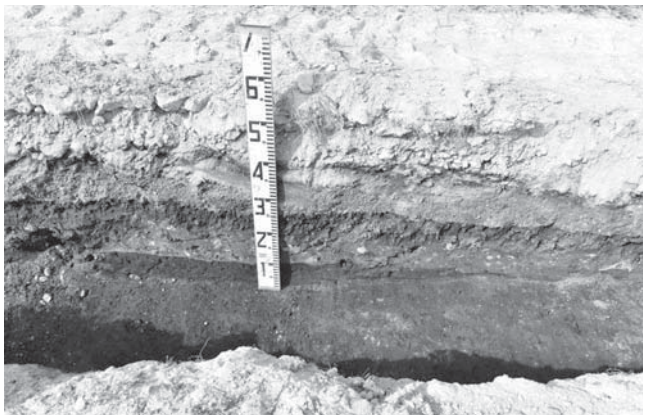


写真24　Ⅰ４区北側西壁土層断面（東より）

写真21　Ⅰ４区南側掘削状況（南より）

写真25　Ⅰ４区北端掘削状況（西より）

写真22　Ⅰ４区中央部掘削状況（南より）

写真26　Ⅰ５区重機掘削作業風景（北東より）

写真27　Ⅰ５区西側掘削状況（西より）

写真28　Ⅰ５区西側北壁土層断面（南より）

写真29　Ⅰ５区東側掘削状況（東より）

写真30　Ⅰ６区重機掘削作業風景（北より）

写真31　Ⅰ６区掘削状況（北より）

写真32　Ⅰ６区南側掘削状況（東より）

写真33　Ⅰ６区黒褐色土検出状況（北より）

写真34　Ⅰ６区黒褐色土掘り下げ後状況（北より）

西方向に屈曲し，71m西の地点で南方向に屈曲，さらに6.5m南でⅠ３区に連結する．いずれも幅0.6m，既設配管が埋設された地表下0.6mまでの掘削を実施した．掘削はいずれも既設配管の埋土内におさまっている．

Ⅰ３区はⅠ１区の南端から西へ114mの範囲について掘削を実施した．本調査区は東西に距離が長いため，事前に試掘を10m間隔で11カ所実施し，土層の堆積状況を確認した．基本土層は調査区東西で大きな相違はない．地表下0.3mまでが山砂やバラスを含む現代整地土，地表下0.3～0.5mまではガラスや近代陶磁器，煉瓦片を含む現代埋土が堆積し，地表下0.4～0.55で近世・近代の陶磁器を含む暗褐色土が検出されている．掘削は調査区の一部において暗褐色土層上面を10㎝程掘削するにとどまっており，少量の陶磁器片を取り上げたが，遺構の検出はなかった．

Ⅰ４区はⅠ３区の西端から3.3m西へ，そこから既設桝を避けつつ北へ屈曲し，武夫原のフェンスや部活棟に並行するように135m北方向へのびる．掘削深度は地表下0.55mで，床面まで全てガラスなど現代遺物を含む造成土であった．ただし，本調査区の北端のみ桝の設置のために1.25m×0.85mの範囲を地表下0.87mまで掘削しており，この地点では地表下0.65mで近世陶磁器の出土する暗褐色土が，地表下0.85㎝では黒髪北地区で古代の遺物包含層として認識されている黒褐色土層が検出された．黒褐色土層からは少量の土師器片が出土している．また，Ⅰ４区では北方向に延びるトレンチに直行するように西側建物に向けて４か所に５～６ｍのトレンチを掘削したが，いずれも掘削深度は地表下0.45mと浅く，全て現代埋土内におさまっている．

Ⅰ５区は道路側の給水管との接続のために東西14m，幅0.7～1.2mを地表下0.7～1mまで掘削した．調査区の大半は建物基礎や埋設物設置に伴う近現代の掘削によって撹乱していたが，調査区東端から３ｍと５ｍの位置には0.7m四方の範囲に近世の包含層と思わしき暗褐色土が地表下0.75mで検出された．また本土層の下位には地表下0.9mで古代の遺物包含層とみられる黒褐色土が検出されている．いずれの土層も施工深度まで人力で掘削したが遺物は出土していない．

Ⅰ６区はⅠ５区の東側に接しており，武夫原と五高記念館の間の道路部分に位置する．両者の境から幅0.65mで東に1.2m，そこから北に3.9m，さらにその端に南北2.7m，東西3.4mの範囲でＬ字形のトレンチを掘削した．トレンチ南側は掘削深度が浅い箇所で地表下0.65m，最も深い南側で地表下1.2mまで掘削したが，いずれも現代の撹乱を受けていた．北側のＬ字形のトレンチでは１ｍ×0.7mの範囲に地表下0.75mで古代の遺物包含層と思われる黒褐色土層が検出された．施工深度は0.95mであったため，この土層については人力で掘り下げを実施し，土師器，須恵器の小片を数点取り上げた．遺構の検出はなかった．

【Ⅱ区】

Ⅱ区は五高記念館の南側，緑地帯および道路面に位置する．ここではⅡ区を，本地区西側緑地帯のⅡ１区，道路面に位置するⅡ２区，Ⅱ２区とⅡ４区の連結部分をⅡ３区，本地区東側緑地帯のⅡ４区の４つの調査区に分けて説明を行なう．いずれも消火管の設置に伴う掘削で，大部分は地表下0.6mが施工深度だが，Ⅱ３区のみ地表下1.3mまで掘削を実施した．

Ⅱ１区は既設の消火栓・管の撤去と消火管の新規設置を目的とした掘削である．既設の消火栓から幅0.6mで南へ1.6mの範囲を掘削したが目的の管は検出できなかったため，消火栓から幅0.6mで東へ9.2mの範囲を掘削し，地表下0.8mで目的の消火管を検出した．いずれも掘削は管設置時の掘方埋土内におさまっている．また新規消火管設置のため，消火栓から南東方向に13m，その南東端から東に向けて34.5mの範囲を幅0.6mで地表下0.6mまで掘削を行なった．本地区の東西トレンチの東

写真35　Ⅱ１区北側掘削状況（西より）

写真36　Ⅱ１区東側掘削状況（西より）

写真37　Ⅱ２区重機掘削作業風景（西より）

写真38　Ⅱ２区掘削状況（東より）

写真39　Ⅱ３区黒褐色土層検出状況（北西より）

写真40　Ⅱ３区遺構検出状況（北東より）

写真41　Ⅱ３区遺構完掘状況（北東より）

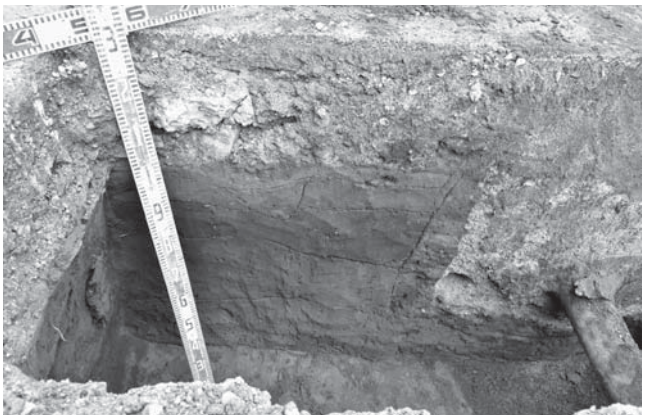


写真42　Ⅱ３区南壁土層断面（北東より）

写真43　Ⅱ４区中央部掘削状況（西より）

写真44　Ⅱ４区東側掘削状況（東より）

側では地表下0.4m程で暗褐色土が，地表下0.5mで古代の遺物包含層と思われる黒褐色土層が検出されているが，遺物は出土していない．

Ⅱ２区は道路面の東西14m，幅0.8mを地表下0.6mまで掘削した．こちらでも地表下0.4mで暗褐色土が，0.45～0.5mで黒褐色土が検出されており，黒褐色土からは少量の土師器片が出土している．Ⅱ３区は既設配管の下に消火管をくぐらせる必要があり，Ⅱ２区の東端から南東に２m，幅0.8の範囲について地表下1.3mまで掘削を行なった．0.45mで黒褐色土が検出されたため，そこからは人力での調査を実施し，本土層内から少量の土師器が出土している．地表下0.6mではやや粘質のある褐色土が検出でき，この上面で遺構を２基検出した．遺構はピットと溝あるいは住居の端で，前者が後者を切っている．ピットは直径約30㎝で検出面からの深さは18㎝である．溝は北で約45度東に振れており，残存部分は幅20㎝，検出面からの深さは20㎝で，西側は既設配管設置時の掘削により失われている．いずれの遺構からも遺物は出土していない．遺構の掘削後，さらに重機で褐色土を掘削したところ，地表下0.9mで白粒の混じるブロック層が検出されたが，本土層に遺物や遺構は認められなかった．黒髪南の他の調査地点の調査成果から鑑みても，本土層は人類の痕跡のない地山である可能性が高い．施工深度である地表下1.3mまで掘り下げたが，最下までブロック層が堆積していた．

Ⅱ４区はⅡ３区南東端から６m南東へ，そこから屈曲し36m北東へ，さらに屈曲し，一部樹木や構造物を避けながら21m東へ，その東端から南へ12.5mの範囲について幅0.6mで地表下0.5～0.6mまで掘削した．掘削は近代の陶磁器や煉瓦が混じる暗褐色土層内におさまっており，古代の遺物包含層までは到達していない．本区では陶磁器や泥面子を取り上げている．

【Ⅲ区】

Ⅲ区は黒髪北地区東辺中央部，設備・管理棟周囲に位置する．ここではⅢ区を設備・管理棟の東から南東にかけてのⅢ１区と，設備・管理棟から北に約15mに位置するⅢ２，３，４区に分けて説明を行なう．また，Ⅲ１区の南東端から公道を通り，附属特別支援学校へ続く掘削箇所をⅢ５区とした．本調査区のうち公道部分は熊本市教育委員会文化市民局文化創造部文化財課の管轄にあたり，より東側の特別支援学校敷地内の掘削範囲については周知の埋蔵文化財包蔵地外に相当し，既存の調査でも遺跡が確認できていないことから本センターでは工事立会を実施していない．

Ⅲ１区は設備・管理棟の東壁から東に2.6m，そこか

写真45　Ⅲ１区重機掘削作業風景（北より）

写真46　Ⅲ１区北側掘削状況（北より）

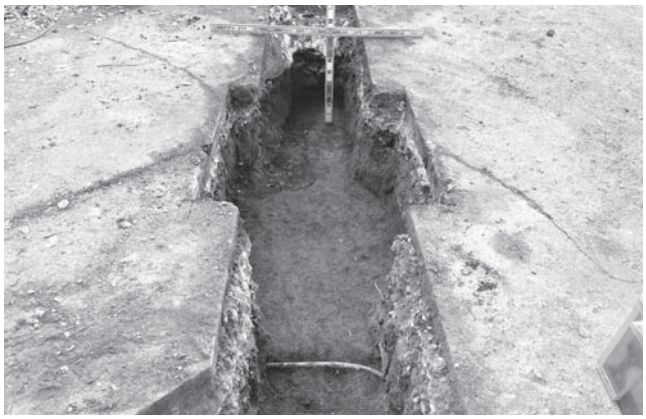


写真47　Ⅲ１区南側掘削状況（北西より）

写真48　Ⅲ２区掘削状況（東より）

写真49　Ⅲ３区重機掘削作業風景（西より）

写真50　Ⅲ３区掘削状況（東より）

写真51　Ⅲ４区掘削状況（西より）

ら南へ25m，その南端で南東へ9.4m，その南東端で東へ3.7mの範囲を幅0.6mでＬ字状に掘削した．掘削深度は北端で地表下0.7m，南端は0.9mで，既設配管や構造物が支障となる部分については施工位置を上げたため一部では地表下0.55cmまでで掘削を終えている．また，北端から15mの位置では幅3.8mのコンクリート製の構造物が地表下0.25～0.35cmで検出されたが，これについては機械を用いて施工深度の地表下0.7mまで取り除いた．本地区周辺は北から南に向けて50cmほど地形が下がる傾斜地であるが，両端で基本土層に大きな変化はない．地表下0.3m～0.5mまではアスファルトあるいはバラスが堆積しており，地表下0.5mから0.8mまでは現代の撹乱土であった．さらに下位には陶磁器や土師器を含むややしまりの弱い暗褐色土層が検出できる．本層は北側では地表下0.8mで南側では0.4mで検出できており，検出レベルの違いは現地形の勾配に起因すると思われる．この暗褐色土層の性格は不明だが，上位にはガラスが混じる点や土の色調から近世・近代の包含層である可能性が高いとみられる．このほか，本トレンチ南東端から9.5m北西の位置では地表下0.45mで近代瓦がまとめて廃棄されていた．遺物として陶磁器・土師器片を取り上げた．近世以前の遺構は検出されていない．

Ⅲ２・３・４区は設備・管理棟の北に位置するポンプ室の北側に位置する．調査区周囲にはフェンスや木が支障となるため，目的とする既設給水管を人力による試掘で探索した．Ⅲ２区では既設給水管の管路を確認するため，ポンプ室北東隅から北に1.8m，東に1.1mの位置に東西3.5m，南北2.2mの試掘トレンチを設けた．地表下0.7mで管の配置と方向を確認できたが，管接続位置と東側の管路が不明であったため，Ⅲ２区から東に6.6mの位置に南北1.9m，東西2.8mのトレンチを設定し，こちらをⅢ３区とした．本区では地表下0.55mで管路を確認することができたが，やはり管接続位置が不明であったため，本区とⅢ２区の間に南北1.8m，東西1.4mのトレンチを設定し，これをⅢ４区とした．本区では地表下0.45mで目的とする管接続位置を確認することができた．各地区では掘削の多くが既設配管の埋土内におさまった．Ⅲ４区の東壁で確認したところ，地表下0.5mまでは現代の撹乱土で，地表下0.5～0.8mでは炭片や陶磁器片の混じるしまりのやや弱い暗褐色土が検出されている．古代以前の遺物・遺構は検出されなかった．

本調査によって黒髪北地区の北側について東西の広い範囲で近世・近代の包含層と思われる暗褐色土層と，古代の包含層と思われる黒褐色土層を確認することができた．後者はＩ６区で地表下0.75m，Ｉ４区北端では地表下0.85mで検出されている．本書に記載した黒髪北地区2103調査地点でも地表下0.45～0.7mで本土層が検出されており，既存の調査成果からも黒髪北地区西側では広い範囲で古代の遺物包含層とその下位に古代の遺構が検出できるであろうことが明白となった．

３．（黒髪北）全学教育棟空気調和設備その他改修工事に伴う工事立会（2110）

＜調査期間＞

2021年11月８日

＜調査面積＞

4.0㎡

＜調査員＞

新里亮人.

＜調査概要・結果＞

全学教育棟東側に設置されている空気調和設備その他改修工事のうち給水管に伴う立会を実施した．対象区域には，貯水槽管理用のフェンスが設置されており，重機が使用できないことから，掘削作業は人力によるものであった.

目視での確認が不可能な埋設管の露出作業が実施されるということで，掘削申請は2.0m×2.0mと広めに設定されていたが，当初設計の位置，表下0.7mにおいて既設管が確認されたため，掘削は0.4m×0.75mの範囲で完了した．掘削の床掘高は，既設管埋め戻し土の堆積深度内に収まっていたため，工事を許可した.

４．（黒髪北他）基幹整備（構内交換設備）Ⅱ期工事に伴う工事立会（2111）

＜調査期間＞

2021年11月18日

＜調査面積＞

33.0㎡（9.0㎡）

＜調査員＞

新里亮人.

＜調査概要・結果＞

黒髪南地区，黒髪北地区における交換設備の通信用配管および通信用構内柱（本柱，支柱）の設置工事に伴う立会調査を実施した．対象地区は黒髪北地区と黒髪南地区の両者に位置するが，前者における調査所見は以下の通りとなる.

黒髪北地区の工区は保健センター南側の敷地に当たり，新設配管および通信用構内柱の掘削箇所の立会を実施した．重機により慎重な掘削を行なったが，地表下0.4mまでは緑地帯の植え込み用客土，その下位に硬質の近代整地層が堆積している状況が確認された．床掘高は近代整地層の堆積深度内に収まるため，土層の記録と写真撮影後，工事を許可した.

写真52　作業風景（南西より）

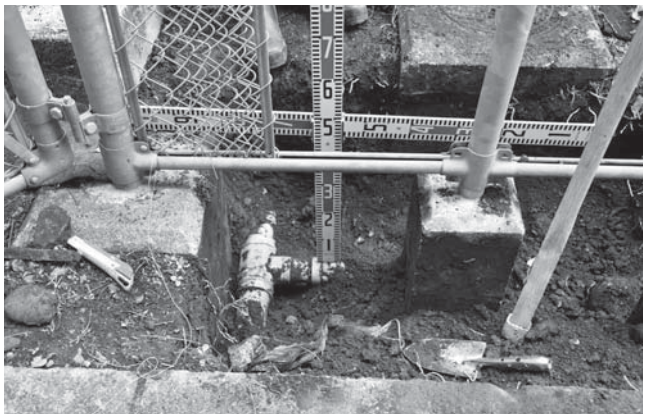


写真53　掘削完了状況（南より）

写真54　本柱設置地点掘削完了状況（北より）

写真55　支柱設置地点掘削完了状況（東より）

５．（黒髪北）文法学部本館渡り廊下等設置工事に伴う工事立会（2113）

＜調査期間＞

2021年12月８日

＜調査面積＞

14.8㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

文法学部南棟と本館の間のスロープに繋がる渡り廊下等設置の工事に係る工事立会を実施した．本館の既設の渡り廊下に接続する形で渡り廊下を新たに設置するために，その基礎部分と路床のための掘削を実施する必要があった．当初は４つの基礎部分を個別に掘削する予定であったが，施工箇所が狭い上に掘削予定深度が0.95ｍと深いため，２つの基礎部分を繋げて布掘りすることになり，東側を１トレンチ，西側を２トレンチと呼称した．

１トレンチは東西1.5ｍ，南北3.0ｍの範囲で地表下0.95ｍまで掘削した．地表下0.7ｍで塩ビ配管が東西に検出されたが，施工に支障がないためその周囲も掘り下げた．地表下0.25ｍでは頭大の川原石が10個ほど検出されたが，整然と並んではいないため，明治期の建物の礎石が廃棄されたものと考えられる．掘削範囲は全て撹乱埋土で，ガラスや赤煉瓦などの近代遺物が検出されている．

２トレンチは１トレンチの西側0.5ｍに並行して南北3.0ｍ，東西1.5ｍ，地表下0.95ｍまで掘削した．トレンチ中央付近では地表下0.3ｍで桝に連結するヒューム管が東西方向に検出されたが，こちらも施工上支障がなかったため，その周囲を掘り下げた．１トレンチと同様，全て撹乱埋土で，煉瓦片や白磁片が出土したがこれらの取り上げは行なっていない．また，路床部分は東西4.65m，南北3.6m の範囲を地表下0.3ｍ掘り下げるのみで，文化

写真56　１トレンチ掘削状況（南より）

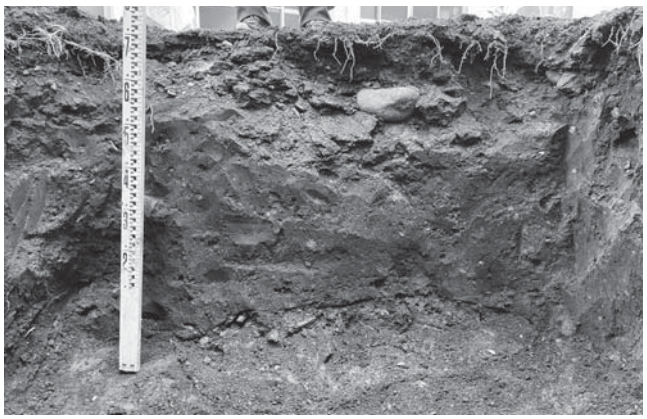


写真57　１トレンチ北壁土層断面（南より）

写真58　２トレンチ重機掘削作業風景（南より）

写真59　２トレンチ南側掘削状況（東より）

写真60　２トレンチ掘削状況（南より）

層に到達することはないため，施工方法の確認と掘削指示し，工事立会を終了した.

６．（黒髪北）五高記念館南側屋外給水管漏水修繕工事に伴う工事立会（2116）

＜調査期間＞

2022年１月13日

＜調査面積＞

2.8（1.54）㎡

＜調査員＞

土野雄貴.

＜調査概要・結果＞

五高記念館に繋がる給水管から漏水が生じ，復旧のための緊急工事に伴い工事立会を実施した.

まず漏水箇所付近を0.6×0.6m掘削し，破損箇所が絞り込めたところで0.35×0.3mをさらに掘り下げ，地表下0.35mで給水管天端，同0.38mで管底を検出し，作業空間確保のため同0.5mまで掘削した.

しかし現地協議の結果，五高記念館入口脇の量水器から破損箇所に至るまでの区間は過去にも応急修理を実施しており，再度の破損の可能性が指摘されたため，今回の掘削箇所付近で切断・交換することとなった．そこで量水器周辺の1.65×1.1m，破損個所までの1.7×0.35mをそれぞれ地表下0.38m掘削し，給水管を露出させ撤去した．いずれも近代整地層におさまり遺構・遺物の検出はなかった.

７．（黒髪北他）外灯設備改修工事（黒髪北地区分）に伴う工事立会（2119）

＜調査期間＞

2022年２月９．10．15日

＜調査面積＞

33.6（29.8）㎡

＜調査員＞

土野雄貴.

＜調査概要・結果＞

老朽化した外灯設備やり替えのうち，黒髪北地区における工事分である．既設撤去・新設からなり，新設工事から着手した.

外灯新設箇所である①は1.4×1.8mを掘削した．地表下0.5mで遺物包含層，同0.8mで地山と不明遺構１を検出した．遺物は包含層より土師器・須恵器片を少量，遺構からは出土していない.

送電線敷設箇所である②は３つに分けた．②ａは0.6

写真61　作業風景（南より）

写真62　既設管検出状況（南より）

写真63　調査区近景（西より）

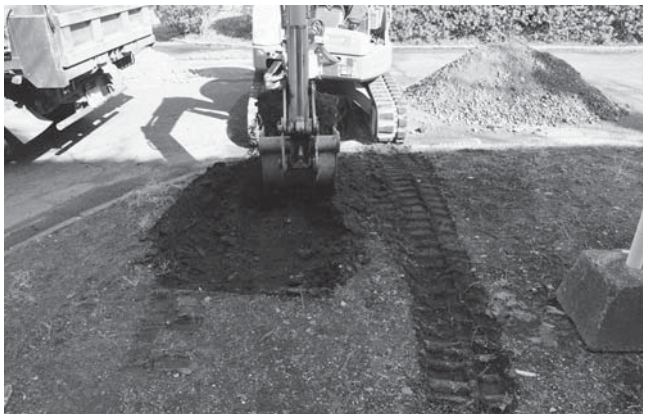


写真64　①作業風景（南より）

写真65　①遺構完掘状況（東より）

写真66　②ａ遺構検出状況（西より）

写真67　③ｃ土層断面（南より）

×31.6mを地表下0.6m掘削した．東側４ｍほどは同0.5ｍで地山，以西では遺物包含層を検出した．８～16m付近にかけて，同0.55mで黒褐色強粘質土を埋土に持つピット状の掘方６・帯状の掘方１を検出したが，完掘に至っておらず詳細は判らない．22m以西では包含層におさまる．土師器・須恵器・陶磁器を少量出土した．

②ｂは0.6×2.0mを同0.5～0.6m掘削したが，掘削は現代埋土におさまり遺構・遺物の検出はなかった．

②ｃは0.6×7.4mを掘削した．①と接する緑地部分では地表下0.4m前後で遺物包含層，同0.6mで地山，道路下では同0.5mで地山を検出した．遺物は出土していない．①，②ともに地山は黒褐色強粘質土であった．

撤去対象である既設外灯③は，いずれも敷地外周の盛土天端付近に設置されており，撤去に伴う掘削は盛土におさまった．遺物は出土してない．

③ａは基礎工の手前0.7×1.0mを掘削し，0.3mで基礎工天端を検出したが，主柱にコンクリートを巻くような形状だったため重機を用いて容易に引き抜けた．抜取り痕内で擁壁の裏込を確認している．

③ｂは手前1.0×0.7mを掘削し，0.6mで基礎工天端を検出した．基礎工の形状は③ａと同様で，やはり重機を用いて容易に引き抜けたが，裏込めは確認されなかった．

③ｃは基礎工の北脇を0.6×1.6m，西脇を0.6×0.8m掘削した．0.25mで基礎工天端，1.1mで捨てコンを検出し，その後重機を用いて撤去した．盛土のうち，天端より1.0ｍほどは褐色粘質土と黒褐色壌質土とが混在しており，敷地外縁の擁壁天端高とおおむね一致することから，盛土の上位は擁壁を築く際に生じた排土を積み上げた可能性がある．

８．（黒髪北他）防犯カメラ配線工事（黒髪北地区分）に伴う工事立会（2120）

＜調査期間＞

2022年２月15～17日

＜調査面積＞

62.24㎡

＜調査員＞

新里亮人．

＜調査概要・結果＞

黒髪北地区の防犯カメラ設置に伴う主柱および電線の埋設箇所について立会を実施した．特に，地表下0.7mまでの掘削を要する主柱埋設箇所については，重点的に土層確認を行なった．掘削は全ての個所で重機が用いられた．

カメラＡ設置地点の立会の結果，掘削深度内において現代埋土（樹木植え込みの客土およびアスファルト基盤）の堆積が確認された．主柱埋設箇所から出土した原位置を留めない間知石は展示用に回収した．

カメラＣ設置個所の掘削深度は，現代埋土（樹木植え込みの客土およびアスファルト基盤）内におさまった．

カメラＤ設置個所の掘削深度においても，現代埋土の堆積を確認した．両地点ともに遺構面への影響はおよばないと判断し，工事を許可した．

カメラＥ設置個所では，主柱部分の床掘高にあたる地表下0.75mにおいて遺物包含層の堆積を確認した．該

当箇所については，これ以上の掘削を行なわないことを確認して工事を許可した．電線埋設箇所の掘削深土は遺構面までは達さなかった．

カメラＦ設置は電線埋設に伴う掘削のみが行われたが，地表下0.4mと深度が浅く，遺構，遺物は確認されなかった．

カメラＧ設置個所も同様に，遺構面への影響はないことを確認し工事を許可した．

写真68　カメラＡ設置地点近景（南西より）

写真69　カメラＡ設置地点掘削完了状況（西より）

写真70　カメラＣ設置地点掘削完了状況（東より）

写真71　カメラＤ設置地点掘削完了状況（北より）

写真72　カメラＥ設置地点掘削完了状況（南西より）

写真73　カメラＦ設置地点掘削完了状況（南より）

写真74　カメラＧ設置地点掘削完了状況（南東より）

9．（黒髪北）五高記念館石碑移設に伴う工事立会（2122）

＜調査期間＞

2022年３月１日

＜調査面積＞

6.3（1.96）㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

五高記念館西端に位置する屋外トイレ南への石碑移設に係る工事立会を実施した．屋外トイレの南西角から東に1.6m，南に3.1mの位置に，東西1.4m，南北1.4mの範囲を地表下0.75mまで掘削した．調査地は緑地帯で隣接する道路部分よりも0.4mほど地表面が高く，従前の調査事例からも古代の遺物包含層までは到達しないと想定された．掘削の結果，地表下0.65mで近世・近代の遺物が混じる暗褐色土層が検出された.

調査区南東角では黒褐色土との漸移層らしき土層が検出されたが，遺物は出土していない．本調査区では地表下0.65mより上位は全て近代の堆積土であると判断できた．ただし，地表下0.25mと地表下0.45mではそれぞれ１㎝程度の亜角礫が厚さ５㎝程堆積しており，これらは五高期の整地土である可能性が考えられる．遺物・遺構の検出はなかった.

写真75　重機掘削作業風景（北より）

写真76　トレンチ掘削状況（西より）

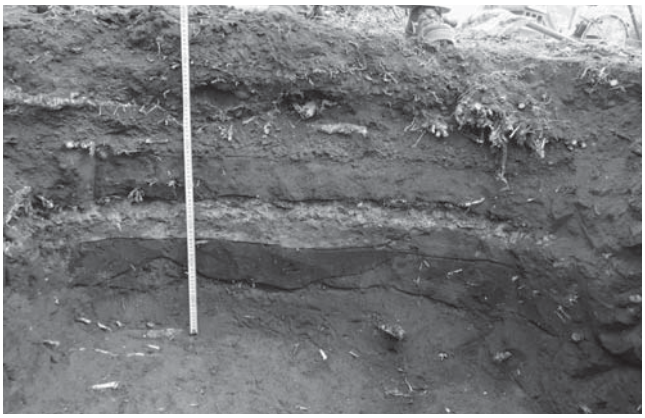


写真77　トレンチ東壁土層断面（西より）

10．（黒髪北）文法学部北棟西側スペース環境整備に伴う工事立会（2125）

＜調査期間＞

2022年３月24日

＜調査面積＞

144.0㎡

＜調査員＞

新里亮人.

＜調査概要・結果＞

文法学部北棟西側の駐車場として利用されている空地において廃棄物が放置されているとのことで，その撤去に伴う立会を実施した.

撤去の対象となる廃棄物は円礫，コンクリートであり，一部は地表に露出していたが，すべて表土内に埋没していたため，掘削を要せずに撤去された．近代建造物の一部（礎石，間知石，平石）も確認されたため，残存状態の良好なものについては資料として五高記念館で保管するよう手配し，立会を終了した.

写真78　廃棄物撤去作業状況（北西より）

Ⅱ－２　黒髪南地区

１．（黒髪北他）五高記念館他災害復旧工事に伴う工事立会（1823）

＜調査期間＞

2021年10月21日

＜調査面積＞

88.16（17.27）㎡

＜調査員＞

士野雄貴.

＜調査概要・結果＞

熊本地震により被害を受けた大学所有の国指定重要文化財災害復旧工事のうち，黒髪南地区所在の工学部研究資料館に係る案件であり，2018（平成30）年度より継続して工事立会を実施している．熊本大学工学部の前身である，熊本高等工業学校の機械実験工場として1908年に建設されたこの建物は，工学部設立60周年記念事業の一環として1977年，工学部研究資料館と改称された.

資料館内への給電線はこれまで，建物北側の共同溝から最寄りの窓を経由していたが，現小資料室北東隅の既設工事箇所を経由して地下を通すことになった．加えて，現在は使用されていない既設浄化槽が沈降しているのが発見され，地下の状況を確認する必要が生じたことから，これらの工事箇所について立会を実施した．設計基礎はこれまでと同じく大資料室床面である.

①は，資料館北縁を巡る側溝から共同溝までの2.96×0.7mと，側溝沿いの0.9×1.52mを掘削した．前者は設計地表下0.45mで既設給電線を検出し，共同溝の手前0.5mを同0.72m掘削した．後者は同0.58mで既設浸透管を検出した．いずれも掘削は現代埋土におさまるが，掘削の曲がり角付近で煉瓦製構造物を検出した．旧ボイラー煙道西側壁の延長線上に位置しており，側壁の一部とみられるが，遺存状況は良好でない.

②は2.5×5.53mを掘削した．設計基礎下0.45～0.5mで円形の旧浄化槽２基を検出し，いずれも天井蓋の損壊が原因であることを確認した．協議の結果，蓋は撤去し，槽体は，水が貯まらないよう穿孔して埋め戻すことになり，それ以上の掘削がないことを確認したところで本工事に伴うすべての立会を完了した.

遺物は，完形の煉瓦３点を出土している.

写真79　①②調査区近景（東より）

写真80　①煉瓦構造物検出状況（南東より）

写真81　外回り旧ボイラー煙道検出状況（北より）

写真82　②掘削完了状況（東より）

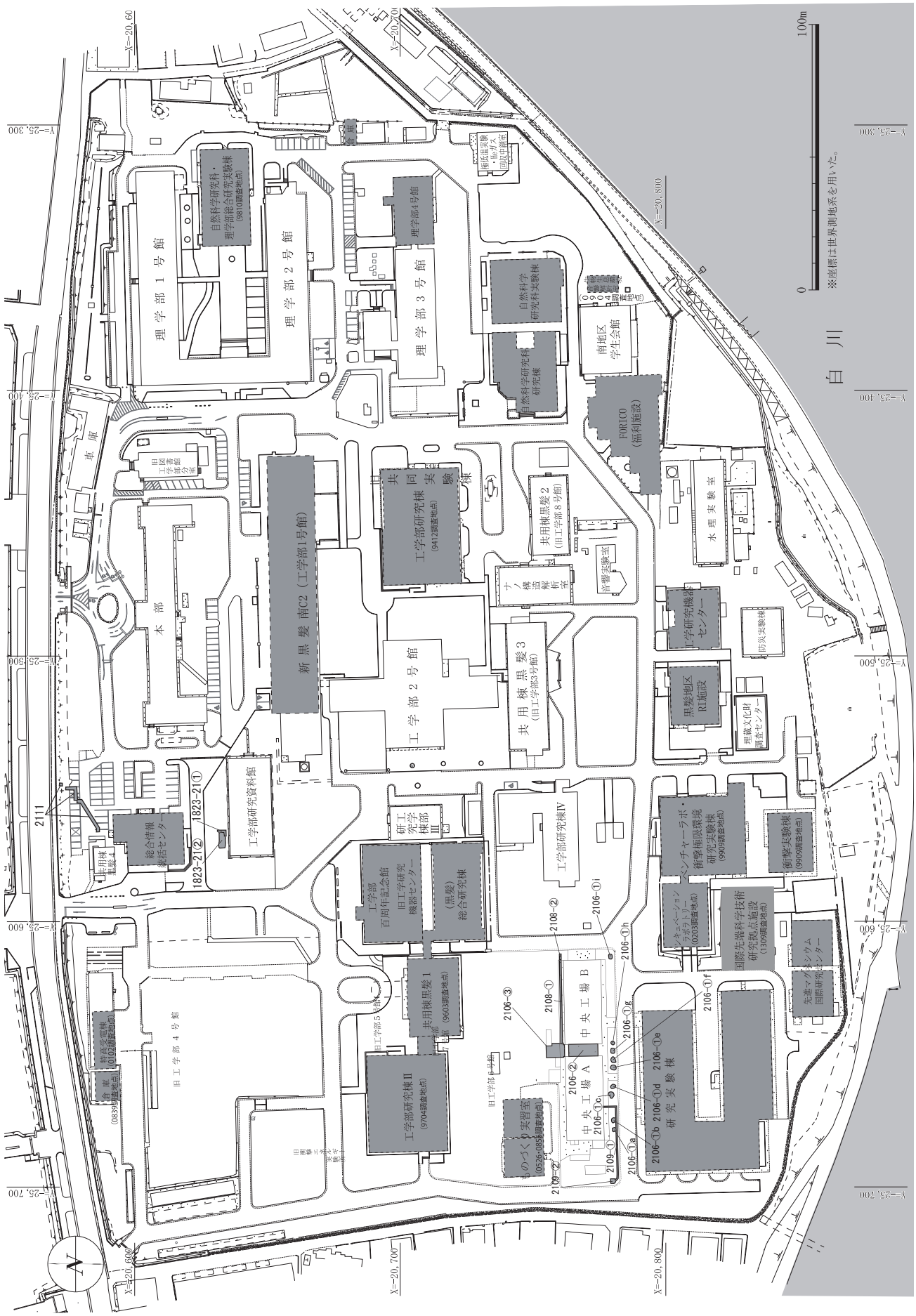


図４　黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000）

２．（黒髪南）中央工場Ａ・Ｂ改修その他工事に伴う工事立会（2106）

＜調査期間＞

2021年10月14．25．26日，11月1日

＜調査面積＞

494.6（104.9）㎡

＜調査員＞

土野雄貴.

＜調査概要・結果＞

これまで２棟に分かれていた中央工場が，間を繋ぐように増築されて１棟へ改修されることになり，工事立会を実施した.

①は，中央工場南側に定植されていた樹木の撤去箇所で，①ａのみシュロ，ほかはカイヅカイブキである．①ａは樹木の周囲1.4×1.7ｍを地表下0.55ｍ掘削し，樹根を撤去した．掘削は表土におさまる．以下，①ｂは1.6×1.8ｍを同0.35ｍ，①ｃは2.5×2.3ｍを同0.15ｍ，①ｄは1.9×1.5ｍを同0.3ｍ，①ｅは2.1×1.9ｍを同0.52ｍ，①ｆは2.2×1.7ｍを同0.42ｍ，それぞれ掘削し，樹根を撤去した．いずれの掘削も表土におさまる．①ｇは1.5×1.0ｍを同0.45ｍ掘削し，樹根を撤去したが，出入口スロープ新設箇所と重なることから，床掘り深度である同0.75ｍまで掘削した．地表下0.59ｍまで表土，以下は現代整地層である．①ｈは1.3×1.3ｍを同0.12ｍ掘削し，樹根を撤去した．掘削は表土におさまる．①ｉは1.25×1.78ｍを同0.3ｍ掘削し，樹根を撤去したが，層序を確認するため同0.75ｍまで掘削した．同0.59ｍまで表土，以下は現代整地層である.

②は増築箇所である．10.9×4.5ｍを地表下1.65ｍ掘削した．同0.58ｍで現代整地層，同0.91ｍで現代砂層を検出した．昭和28年のいわゆる６・26水害時の堆積物とみられる．遺構・遺物の検出はなかった.

③は階段新設箇所である．7.0×5.25ｍを地表下1.65ｍ掘削した．掘削は現代砂層におさまり遺構・遺物の検出はなかった．以上の成果を踏まえ，残りの作業は慎重に行うこととして立会を終了した.

写真83　②調査区近景（北より）

写真84　②土層断面（東より）

写真85　②掘削完了状況（北より）

３．（黒髪南）中央工場Ａ・Ｂ改修その他機械設備工事に伴う工事立会（2108）

＜調査期間＞

2021年10月25．27日

＜調査面積＞

262.6（20.40）㎡

＜調査員＞

土野雄貴.

＜調査概要・結果＞

中央工場棟の改修に係る付帯工事の１つで，給排水設備の撤去・更新に伴う工事立会を，もっとも深い掘削となる中央工場Ｂ棟北側について実施した.

①は0.6×32ｍを掘削した．地表下0.35ｍで既設雨水管を検出し，同0.6ｍで撤去した．掘削は現代埋土におさまる．次いで，既設管より深く入るＢ棟北東隅付近の0.6×1.0ｍを同1.1ｍ掘削したが，掘削は現代埋土におさまり遺構・遺物の検出はなかった.

②は0.6×2.0ｍを地表下0.1ｍ掘削し，既設桝を露出さ

写真86　調査区近景（西より）

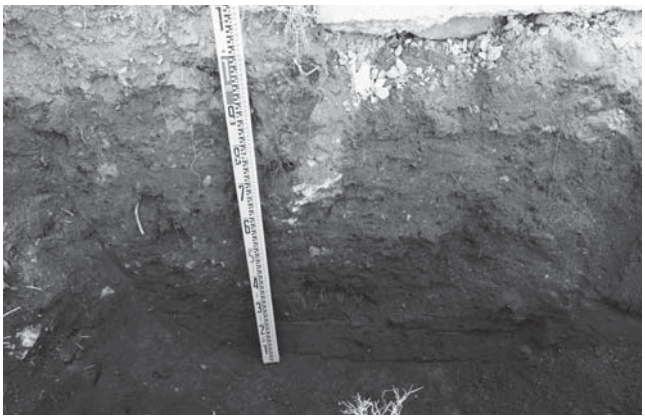


写真87　①土層断面（北より）

写真88　②掘削完了状況（北より）

せたが，流用することになりそれ以上の掘削は生じなかった．掘削は表土におさまり遺構・遺物の検出はない．以上の成果を踏まえ，残りの作業は慎重に行うこととして立会を終了した．

４．（黒髪南）中央工場Ａ・Ｂ改修その他電気設備工事に伴う工事立会（2109）

＜調査期間＞

2021年11月１日，12月13．14日

＜調査面積＞

19.28（17.03）㎡

写真89　①調査区近景（東より）

写真90　①掘削完了状況（東より）

写真91　②掘削完了状況（南より）

＜調査員＞

士野雄貴．

＜調査概要・結果＞

中央工場Ａ・Ｂ棟改修に係る付帯工事の１つで，工場棟南西にある外灯改修に伴う工事立会である．工場棟から繋がる送電線設置箇所①と，やり替えになる外灯設置箇所②とからなる．

①は4.4×0.5mと，27.6×0.5mをそれぞれ地表下0.4m掘削した．現代埋土におさまり遺構・遺物の検出はなかった．

②は1.7×1.9mを掘削した．地表下0.1mで電柱基礎工

天端，同0.9mで現代整地層および基礎工下の捨てコン，同1.0mで既設ヒューム管と，2106調査地点で確認した現代砂層を検出した．基礎工撤去後に掘方内を同1.2mまで掘削したが，現代砂層におさまり遺構・遺物の検出はなかった．

５．（黒髪北他）基幹整備（構内交換設備）Ⅱ期工事に伴う工事立会（2111）

＜調査期間＞

2021年11月15日

＜調査面積＞

33.0（24.0）㎡

＜調査員＞

新里亮人．

＜調査概要・結果＞

黒髪南地区，黒髪北地区における交換設備の通信用配管および通信用構内柱（本柱，支柱）の設置工事に伴う立会調査を実施した．対象地区は黒髪北地区と黒髪南地区の両者に位置するが，後者における調査所見は以下の通りとなる．

黒髪南地区の工区は文書館北東側の敷地に当たり，新設配管および通信用構内柱の掘削箇所の立会を実施した．新設配管埋設箇所においては地表下0.6m まで現代埋土が堆積している状況を確認した．床掘高となる地表下0.7mのまでを慎重に掘り下げ，床面を精査した結果，地山である黄褐色土層を掘り込んだ近代遺構の掘方が確認されたた．略測および写真記録を行ない，工事を許可した．

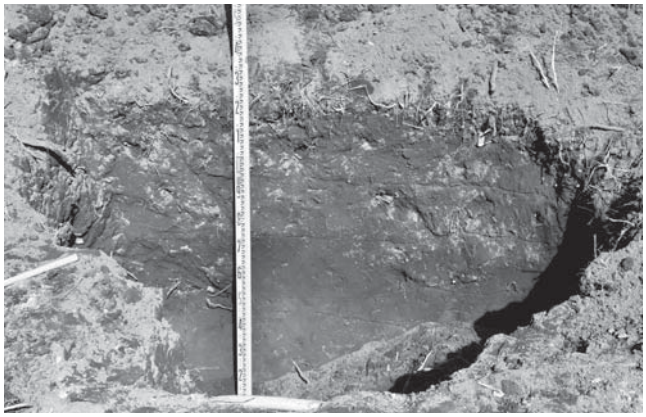


写真92　支柱設置地点掘削完了状況（南より）

写真93　通信用配管路設置地点掘削完了状況（東より）

通信用構内柱の設置個所において地表下0.45m 以下に黒髪キャンパス内における基本土層の堆積が確認されたが，遺物，遺構ともに確認されなかった．

Ⅱ－３　宇留毛地区

１．（宇留毛）災害復旧工事（法面対策）に伴う工事立会（2102）

＜調査期間＞

2021年４月19日～５月14日（測量）
2021年６月７日～29日（工事立会）

＜調査面積＞

57.57㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎，新里亮人，大坪志子，士野雄貴．

＜調査概要・結果＞

宇留毛地区に所在する寄宿舎・国際交流会館の東側，崖法面部分における災害復旧工事に伴う工事立合を実施した．

本調査地点は宇留毛小磧橋際横穴群の包蔵地に含まれる．本横穴群は寛政８年（1796）に発生した洪水がきっかけとなり発見された．戦時中は横穴が防空壕として転用・掘削を受け，10基以上が破壊を受けたという．1955年には道路拡幅工事に伴い，乙益重隆らにより数基の横穴の緊急調査が実施され，出土した遺物の内容から６世紀末頃の横穴群と推定された（乙益重隆1971）．工事個所は遺跡の所在する丘陵裾の西端崖法面および崖上傾斜地に相当する．調査地点の南側には白川が流れており，これに沿うようにして県道337号が走る．令和２年７月の豪雨による本地点における小規模な崖面崩落に加え，長年にわたる崩落土の堆積のため，県道の通行に対する安全対策が必要となった．そこで緊急対応として，崩落土の除去および既存防護ネットの補修を実施する運びとなった．崩落土の除去に先立ち，熊本市市民文化局文化財課と本学施設部で協議を行なったところ，崩落土の除去のため包蔵地の「掘削」は生じないということで，埋蔵文化財保護法第93条の申請は不要との回答を得た．しかし，遺跡の保護と崩落土中の遺物精査のため，本センターでは2020年10月に実施された工事で立会を行なった（新里編2022）．この際，排土中に古墳時代の遺物は確認できなかった．また，崖面に繁茂する草木，堆積土砂，亀裂箇所の除去について人力で実施しており，精査中に横穴数基の開口部を確認している．この2020年の工事により崩落土に対する応急処置を実施できたが，崖面が再度崩落した場合の安全対策を講じる必要があったため，本年度に改めて工事を実施することとなった．

本年度の施工内容・位置は大きくⅠ～Ⅲ区の３つに分かれる．Ⅰ区は崩落した法面に対する高エネルギー防護網工法による防護ネットの設置に係る工事である．ネットを支えるためのアンカー等の設置が必要であり，これに伴う穿孔・掘削が発生する．Ⅱ区は上記工法を採用するにあたり，崖法尻（大学敷地境界線）に防護ネットを設置する必要があるため，現況で法尻部分に堆積している崩落土の除去を実施した．Ⅲ区は崩落によってオーバーハングした崖法面上部の張り出し部分の掘削作業である．埋蔵文化財調査センターではこれら工事の実施にあたり，事前に本遺跡における横穴の数と位置を把握するために，崖法面と崖上傾斜地の踏査を実施し，簡易的な測量調査を行なった．宇留毛小磧橋際横穴群の横穴の分布は，平成４年度に美濃口雅朗の現地調査によって，横穴の可能性のあるものも含めて36基の残存が確認され，横穴の平面分布図が記録されている（美濃口編1994）．今回の踏査・測量でも横穴墓と思わしき約40基の位置，横穴墓を転用したと思われる第二次世界大戦中の防空壕の位置を把握することができた．その詳細については本報告に譲りたい．

【Ⅰ区】

崩落のあった崖面南西端，幅約22ｍの範囲に新たな防護ネット設置に必要なロックアンカーを差し込む工事を実施した．アンカーの施工の内容は，ドリルで直径5.5㎝程の小孔を地面に直行するように１～３ｍ穿孔し，その孔とアンカーの隙間にアンカーを固定するためのコンクリートを注入するというものである．また，設置箇所の表面が土壌の場合は，その地表周囲に約50㎝四方のコンクリート基礎を施工する．これらの施工はアンカーと土との摩擦力を高め防護ネットを安定させるために行われる．そのため穿孔に際しては横穴のような空間を必ず避ける必要があった．センターでは設計段階で業者と施工位置を調整し，現段階で確認できた横穴からは位置をずらして施工するよう指示した．また，崖上傾斜地の一部のアンカー設置箇所（④～⑥）については，地表に腐葉土が厚く堆積していることから，アンカー設置箇所手前を試掘し，土層の堆積状況と横穴の有無を確認している．

アンカーの設置個所は試験掘削位置（⑰）も含めて17か所である．このうち崖法尻の４つのアンカー設置箇所（⑨～⑫）では道路面から10～20㎝の高さで崖面に対して垂直に穿孔するため，周囲を精査し，横穴への影響がないと判断した上で工事を実施した．また，崖法面のアンカー設置箇所（⑯，⑰）では周囲の横穴に影響がないことを目視により確認した上で施工を行なった．立会の結果，⑨～⑫，⑯，⑰のいずれの地点でも，土中に空間はなく施工を完了した．

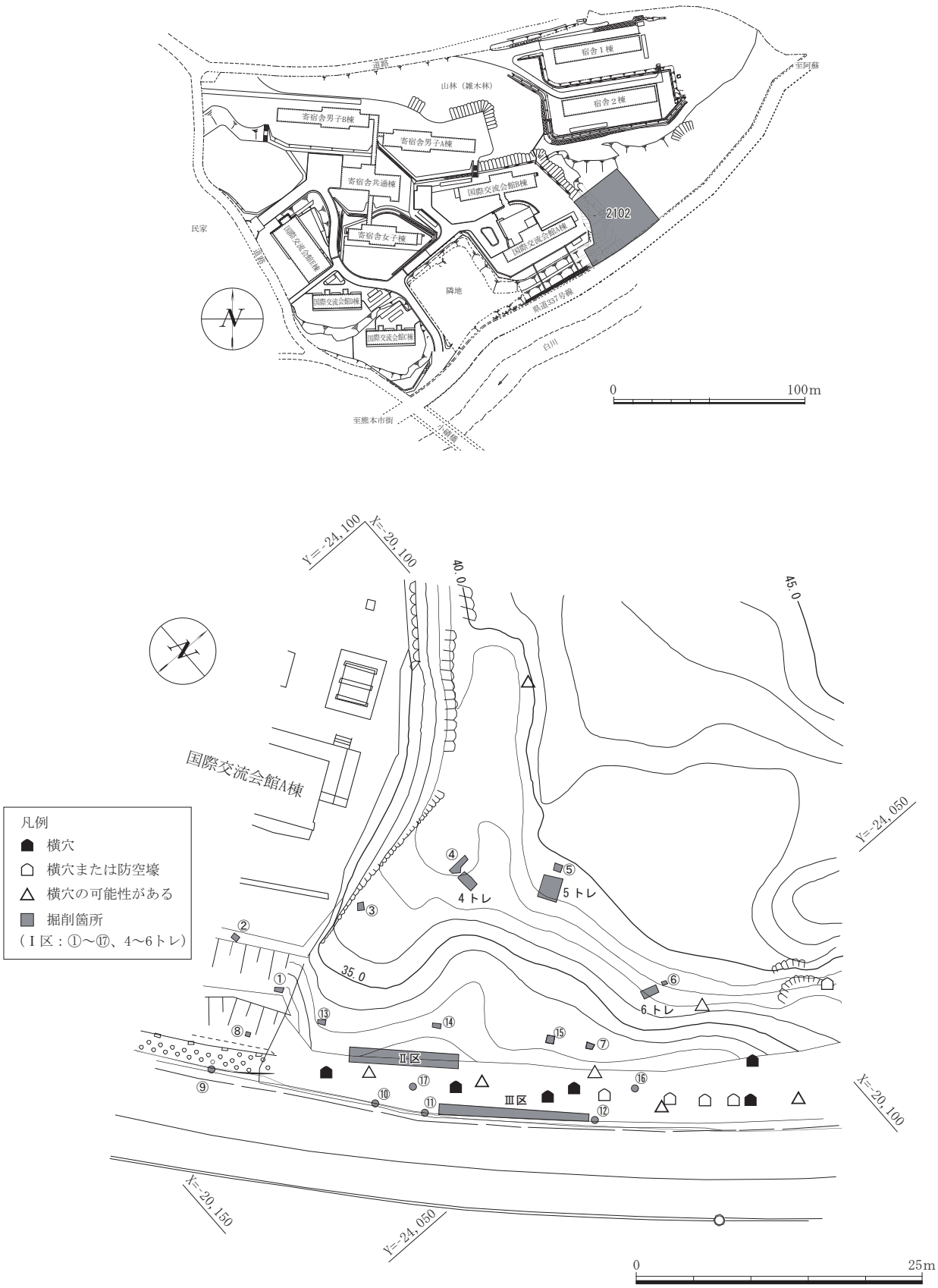


図５　宇留毛地区における調査地点配置図（1/2000）

写真94　調査地点崖法面（東より）

写真95　調査地点崖上斜面（北より）

写真96　調査地点北東横穴玄室内部（南東より）

写真97　調査地点北東防空壕内部（南東より）

写真98　Ⅰ区⑰ドリル穿孔作業風景（東より）

写真99　Ⅰ区②掘削状況（南西より）

写真100　Ⅰ区④掘削状況（北東より）

写真101　Ⅰ区⑦掘削状況（南東より）

崖上は施工箇所によって地形の変化が著しい．調査地点南西側のやや傾斜が強い舌状の尾根は最も低い場所で標高が約31mである．本尾根の西袖は国際交流会館の敷地に沿って削平されており，高さ約４mの崖を形成する．この尾根の北側では標高36m程で傾斜が緩やかになり，尾根の根本あたりで幅７m程の大溝によって北東側の丘陵と分断されている．調査地点東側はこの北東に広がる丘陵の南西端に相当し，低い所で標高約32m，高い所では標高約39mとかなりの高低差がある．この起伏の激しい傾斜地において，９箇所のアンカー設置（②～⑥，⑧，⑬～⑮）と２箇所のライン固定用基礎設置（①，⑦）に伴う掘削を実施している．現地表面の観察では施工位置の周囲に横穴を確認できなかった．このうち①～③，⑦，⑧，⑬～⑮については，アンカー用コンクリート基礎およびライン固定用基礎の設置のため40㎝～70㎝角で深さ0.5～１mの掘削を実施した．立会の結果，土層は上から，腐葉土，遺物を含まない黒褐色土または褐色土，しまりがやや弱く粒子の細かい黄褐色土，そして地山である礫混じり褐色土の順に堆積していた．掘削が地山までおよんだ地点は⑥，⑦，⑬，⑭の４箇所でそれぞれ地表下0.7m，0.5m，0.7m，0.8mで検出されている．①では地表下0.25mで地山の風化したようなややしまりの強い暗褐色土が検出され，下位にいくほど漸移的に褐色になる状況が確認できた．⑮で出土した近代遺物を除き，いずれの地点でも遺物や遺構は検出されていない．また，アンカー設置箇所については，ドリルによる穿孔時にも立会ったがいずれの地点でも土中に横穴などの空間には当たらなかった．

アンカー設置箇所のうち④，⑤，⑥の３地点について計４か所のトレンチを設け，土層の堆積状況の確認と遺跡の有無を調べるための試掘を実施した．

アンカー設置箇所④では0.8×1.9mのトレンチを設定し，その南東側に直行するように1.6×0.8mのトレンチ４を設けた．地表下1.3mで礫混じりの暗褐色土を検出し土師器や須恵器片，青磁片が出土した．遺構の検出はなかった．

アンカー設置箇所⑤から南に50㎝の位置に2.2×1.7mのトレンチ５を設けた．地表下1.2mでは礫混じり黒褐色土が全面に検出され，本土層から底部に糸切り痕跡のある須恵器碗や土師器片が出土した．また，地表下1.6mでは炭混じり黒褐色土が検出され，その上面では直径30㎝程のピット数基や南西方向に落ち込む溝１期が検出された．炭混じり黒褐色土中からは土師器片のほかに滑石製品の破片が出土しており，いずれも中世の遺物，遺構である可能性が高い．トレンチ南東側に先行トレンチ

写真102　Ⅰ区⑬掘削状況（南東より）

写真103　Ⅰ区⑮掘削状況（南東より）

写真104　Ⅰ区トレンチ４掘削状況（北東より）

写真105　Ⅰ区５トレンチ遺構検出状況（南東より）

写真106　Ⅰ区５トレンチ掘削状況（南より）

写真107　Ⅰ区６トレンチ掘削状況（西より）

を設け，地表下1.4mまで掘削したところ，最下層は遺物の出土しない亜角礫が混じる褐色土で，本土層が地山の可能性が高いと考えられる．

アンカー設置箇所⑥から西に0.7mの位置に0.7×1.45mのトレンチ６を設けた．地表下0.2mまでは腐葉土で，その下位では小角礫を含む褐色または暗褐色が厚く堆積していた．また，トレンチ北側では地表下0.65mで，南側では地表下1.6mで礫を多く含む褐色土が検出されており，本土層を地山と判断して調査を終了している．遺物，遺構は検出されなかった．

試掘後，ドリルによる穿孔にも立会い，④～⑥のいずれの地点でも横穴などの空間がないことを確認している．４か所の試掘の成果により，調査地点に古代または中世の遺跡が存在すること，地山の検出深度が地点によって大きく異なるため旧地形が現在と大きく異なることなどを把握することができた．本調査地点は菊池氏家臣の立田氏の居城である立田城跡と推定されており（隈ほか編1978），今回発見された中世の資料もこれに関連する可能性がある．資料整理中のため，現段階で古墳時代と判断できる遺物を出土遺物中に確認できてはいないが，アンカー③付近の崖下，丘陵南西側人道入口部分で古墳時代の須恵器蓋の完形品を表面採集している．

写真108　Ⅲ区掘削作業風景（南東より）

この他，アンカーに取り付けるラインを通すためにトレンチ４，５の南と東の位置に４箇所（Ｌ１～４），幅20～30cmで10cm程の掘削を行っているが，いずれも表土のみの掘削でおさまった．

【Ⅱ区】

Ⅱ区では崖面法尻の大学敷地境界線の外にはみ出した崩落土の撤去を実施した．この崩落土は令和２年の豪雨によるものではなく，長年の風雨によって崖法面が崩れて堆積した土である．重機を用いて掘削するため工事は夜間に実施した．本工事は崩落土の除去であり遺跡の掘削は伴わないが，崩落土中の遺物精査や遺跡保護の観点から工事立会を実施している．

本調査地点北東側の13mの範囲について崩落土を重機によって除去した．堆積していた崩落土は厚くとも15cmほどで，排土中には近代以外の遺物は認められなかった．すべての範囲で敷地境界線外の土を除去できたため立会を終了した．

【Ⅲ区】

Ⅲ区では崖面の崩落によってオーバーハングした崖法面上部の張り出し部分の掘削について立会を実施した．張り出し部分の掘削は崖上からロープを下ろして工事業者が人力で実施した．立合では掘削箇所に横穴など遺跡がないことを確認する必要があったため，調査者が高所作業車に乗り，目視でこれを行なった．高所作業車の設置で県道片側を塞ぐため，本工事は夜間に実施している．掘削は崖上面の張り出し部分について，幅9.6m を崖上際から２m下位の高さまで実施した．本掘削では開口部など横穴に影響を与えることはなかった．高所作業車上で崖法面表面を観察したところ，崖法面の三分の二程の高さまで，モルタルで法面が保護されている状況であることが確認できた．掘削範囲の多くはこのモルタルまたは崖上に堆積した腐葉土で占められており，崖面に露出した地山と思わしき礫混じり灰褐色火山灰質砂の掘削は

わずかであった．排土の精査も実施したが，近代の空き缶や磁器片のみであり，古墳時代の遺物は確認できなかった．

文献

乙益重隆　1971「宇留毛小磧橋際横穴群」『熊本市北部地区文化財調査報告書』pp.147－149　熊本市教育委員会

隈昭志・緒方勉．大田幸博・西町圭子ほか編　1978『熊本県の中世城跡』熊本県文化財調査報告第30集　熊本県教育委員会

新里亮人編　2022『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報2020年度』熊本大学埋蔵文化財調査センター

美濃口雅朗編　1994『つつじヶ丘横穴群　発掘調査概報Ⅰ』熊本市教育委員会

Ⅱ－４　本荘北地区

１．（医病）基幹・環境整備（屋外環境整備等）工事（排水溝等）に伴う工事立会（1904）

＜調査期間＞

2021年４月１日～2021年４月28日

＜調査面積＞

6231.1㎡

＜調査員＞

新里亮人.

＜調査概要・結果＞

2019（令和元）年度より継続してきた工事立会で，本年度は現在の正門付近における配管設置工事区域が立会の対象となった.これまでと同様，工事掘削の立会時，包含層や遺構面の残存が確認され，その保存に影響がおよぶと判断した区域の発掘調査を実施した.

調査の結果，溝やピット等が検出され，病院敷地南縁の緑地帯下に古代の遺構面が残存している状況が確認された．立会は４月27日で終了し，４月28日，機材を撤収して調査を完了した.

写真109　④－29調査区掘削完了状況（北より）

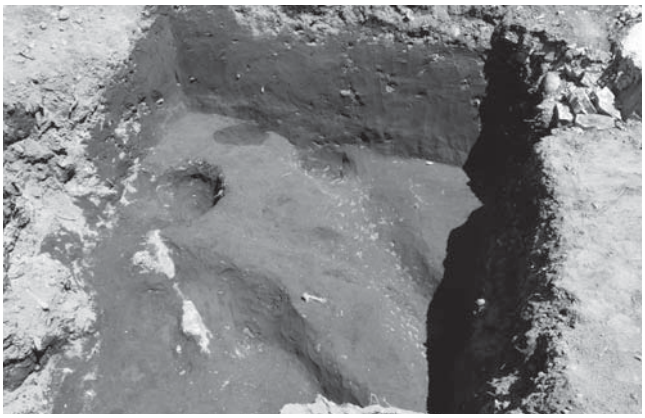


写真110　④－30調査区完掘状況（西より）

２．（医病）トリアージ棟新営工事に伴う工事立会（2103）

＜調査期間＞

2021年６月10～11．14日，９月７～10．13日

＜調査面積＞

714.5㎡

＜調査員＞

新里亮人.

＜調査概要・結果＞

旧臨床研究棟跡地に新営されるトリアージ棟の建築範囲の立会を実施した．実施期日と立会所見は以下の通りである．６月10日から14日の期間中は，新営建物周辺に設置されるハンドホール，雨水管，電線管，給水管，ガス管，側溝等の設置に係る掘削，９月７日から13日にかけては，新営される建物の本体工事に伴う掘削に立会した.

６月中の立会結果は以下の通りである．工区南西側にあたる貯水槽周辺の掘削区域（Ａ地点）は，貯水槽の掘方内に該当したため遺構・遺物は確認されなかった．北西側管路部分の掘削の結果（Ｂ地点），地表下0.7mにおいてガス管，水道管を確認した．配管はこれらの上位に設置されるため，本地点の立会は終了した．北側管路部分（Ｃ地点）の掘削の結果，地表下0.7mにおいてガス管，水道管を確認した．配管はこれらの上位に設置されるため，立会を終了した．南東側管路部分（Ｄ地点）の掘削の結果，対象区南半分の地表下1.1mにおいて近世包含層を確認した．床掘高となる地表下1.2mまで人力で掘り下げ，遺物の回収後，工事を許可した．立会区内は床掘高までの掘削後，ブルーシートで被覆され，ひとまず埋め戻された．建物の新営工事の際に再度掘削されることとなった.

９月から開始されたトリアージ棟の新営工事に伴う掘削では，対象区の一部が汚染土エリアに該当することから，その詰め込み作業を並行した掘削工事が行なわれた．そのため，掘り下げには一定の期日を要することとなった．掘削は工区西側より開始され，床掘高までの掘削完了後，東側に向かって随時掘削範囲を拡大する工程で行なわれた．工区内の掘削作業が完了するまで，適宜立会を実施したが，床掘高まで既掘削土の堆積が確認された．本建物の新営工事での掘削深度は，旧臨床研究棟取り壊し工事（1905調査地点）による掘削深度内に収まることが確認できたため，工事を許可した.

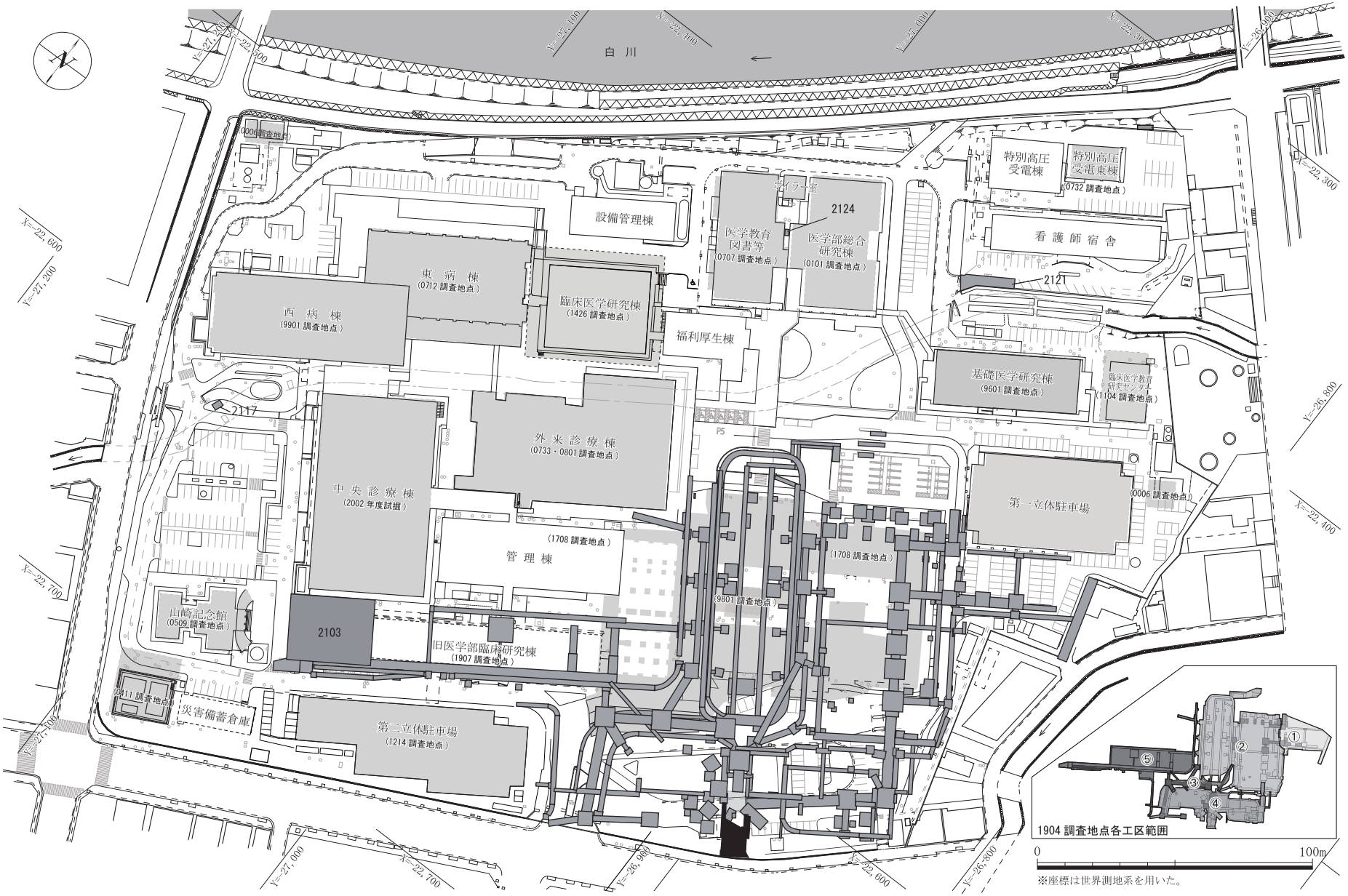


図６　本荘北地区における調査地点配置図（1/2000）

写真111　Ｃ地点掘削完了状況（南より）

写真112　Ｄ地点遺物包含層検出状況（北より）

写真113　トリアージ棟新営工区掘削完了状況１（北東より）

写真114　トリアージ棟新営工区掘削完了状況２（北東より）

３．（医病）中央診療棟西側貯留槽ポンプアップ排水管取替工事に伴う工事立会（2117）

＜調査期間＞

2022年１月28日

＜調査面積＞

8.75㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

本荘北地区の西側，西病棟入口前のロータリーの緑地帯付近に埋設されている貯留槽の２つのポンプのうち１つが故障，稼働するポンプはそれに接続している管が破損した状態であった．本調査は，ポンプの取替工事に伴う立会調査である．工事のためには貯留槽内を一旦空にする必要があった．そのため，流入が少なくなる１月28日夜から29日午前中にかけて空にし，29日午後から掘削を行った．15年ほど前に一度同じ個所を掘削しており，今回とは別の配管の修理を行っている．

掘削範囲では，遺物包含層や地山は検出されなかったが，円礫が数個出土した．2014年に実施した1321調査地点で検出した，旧三の井手の石垣の裏込めと同様のもの

写真115　作業風景（西より）

写真116　破損配管確認状況（南より）

写真117　出土した円礫（南東より）

である．付近に，江戸期の石垣があった可能性が高い．なお，工事の際に確認した暗渠（三の井手）の位置と方向は，地図とは異なっていた．本地点の暗渠は，実際にはもっと北を向いている．

遺物は土師器の坏の口縁と思われる小さな破片が１点出土した．

４．（医病）看護師宿舎前貯留槽ポンプアップ排水管取替工事に伴う工事立会（2121）

＜調査期間＞

2022年２月28日

＜調査面積＞

67.75（32.4）㎡

＜調査員＞

新里亮人．

＜調査概要・結果＞

看護師宿舎の駐車場南西側に埋設されている貯留槽付近において漏水が確認され，排水管に取替工事が実施されることとなったため，工事に伴う立会を実施した．工事は，１．アスファルトカット後，工区西側の掘削によって既設管を露出，２．東側に向けて既設管を追跡確認，３．工区西側において地中方向に向かってＬ字連結する既設管の検出と漏水箇所の確認，以上の手順によって進められた．１，２の作業は重機による掘削，３は人力によるものであった．

取替対象となる排水管の埋設位置は，地表観察からの予測が難しく，作業は難航が予想されたが，掘削作業は順調に進行し，漏水箇所も無事に確認された．工事による掘削は既設配管の掘方埋土内に留まり，埋蔵文化財への影響がないことを確認して立会を終了した．

写真118　既設管検出状況（西より）

写真119　漏水管検出状況（北より）

５．（本荘北）医学総合研究棟屋外排水管補修工事に伴う工事立会（2124）

＜調査期間＞

2022年３月22・23日

＜調査面積＞

3.6㎡

＜調査員＞

新里亮人．

＜調査概要・結果＞

医学部総合研究棟の北側において漏水が確認されたため，該当排水管を取替工事に伴う立会を実施した．

コンクリート土間の除去後，埋設されている３本の既設管を掘削検出したところ，いずれの管もＬ字連結部分において漏水が確認された．しかし，設計図上には，４本の排水管設置が記載されていることから，その破損状況も追加で確認すべく工区を南側に拡張する必要性が生じた．そのため，熊本市市民文化局文化財課に掘削範囲変更の連絡後，立会を再開することとし，初日の立会を終了した．

翌日，掘削範囲変更の許可を得て工事が再開され，掘削工区の南側拡張によって該当するすべての既設管が検

写真120　掘削作業状況（北より）

写真121　掘削完了状況（北より）

出された．工事による掘削範囲と深度は既設管の掘方埋土内におさまっていることを確認し，立会を終了した．

Ⅱ－５　本荘中地区

１．（本荘中）昔寿メモリアル収蔵庫植栽工事に伴う工事立会（2112）

＜調査期間＞

2021年11月24日

＜調査面積＞

36.5（0.76）㎡

＜調査員＞

士野雄貴.

＜調査概要・結果＞

昔寿メモリアル収蔵庫南側の植栽工事に伴う工事立会である．除草を兼ねた整地箇所と，低中木（ドウダンツツジ・アジサイ．ハナミズキ）植栽箇所からなり，もっとも深い掘削となる２本のハナミズキ植栽箇所について実施した.

①は直径0.75mを地表下0.45m掘削し，底から近代整地層を検出した.

②は0.7×0.6mを同0.4m掘削し，掘削は現代埋土におさまった．いずれも遺構・遺物の検出はない．以上の成果を踏まえ，残りの作業は慎重に行うこととした.

写真122　調査区近景（南東より）

写真123　①掘削完了状況（南東より）

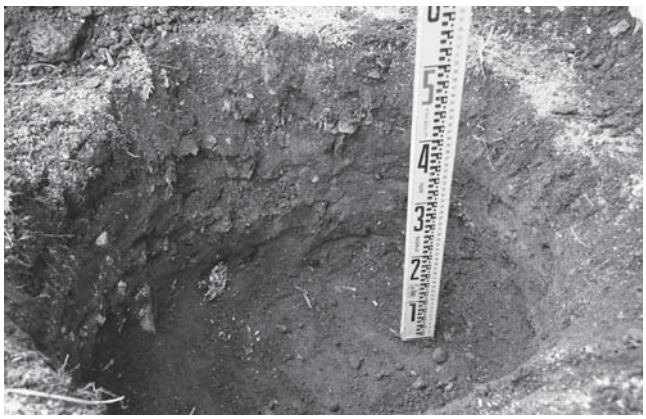


写真124　②掘削完了状況（南東より）

２．（黒髪北他）外灯設備改修工事（本荘中地区分）に伴う工事立会（2118）

＜調査期間＞

2022年２月７日．８．14日

＜調査面積＞

32.01（27.7）㎡

＜調査員＞

士野雄貴.

＜調査概要・結果＞

老朽化した外灯設備やり替えのうち，本荘中地区における工事分である．既設撤去・新設からなり，新設箇所から工事立会を実施した.

外灯新設箇所①は1.6×1.6mを地表下1.35m掘削し，同1.1mで近代舗装面，同1.35mで古代遺物包含層を検出した．土師器・陶磁器を数点出土している.

送電線埋設箇所②は４つに細分した．②ａは0.6×7.1mを地表下0.8m掘削した．現行の擁壁掘方におさまる．②ｂは0.6×6.6mを同0.65m掘削し，同0.6～0.65mで近世遺物包含層を検出した．②ｃは0.6×34mを同0.8m掘削した．同0.5～0.6mにかけて近代整地層，以下は近世遺物包含層を検出したが，北から20m付近では褐灰色砂土に変わる．25～31m付近では近代整地層が激しく焼けており，空襲痕跡とみられる．②ｄは0.6×7.0mを同0.65m掘削した．掘削は近代整地層におさまる．土師器・陶磁器・煉瓦・ガラス片を少量出土した.

既設外灯撤去箇所③は，既設基礎工の北脇を0.8×2.0m，西脇を0.8×1.2mそれぞれ掘削した．1911調査地点Ｗ－24ａの北東隅とほぼ接する．地表下0.8mで近代埋土と基礎工掘方，同1.0mで近世遺物包含層を検出した．基礎工掘方内から同1.1mで捨てコンを検出したが掘方との隙間がなく，周囲を掘り下げ同1.2mで地山を検出した．遺構は検出していない．基礎工は重機を用いて吊

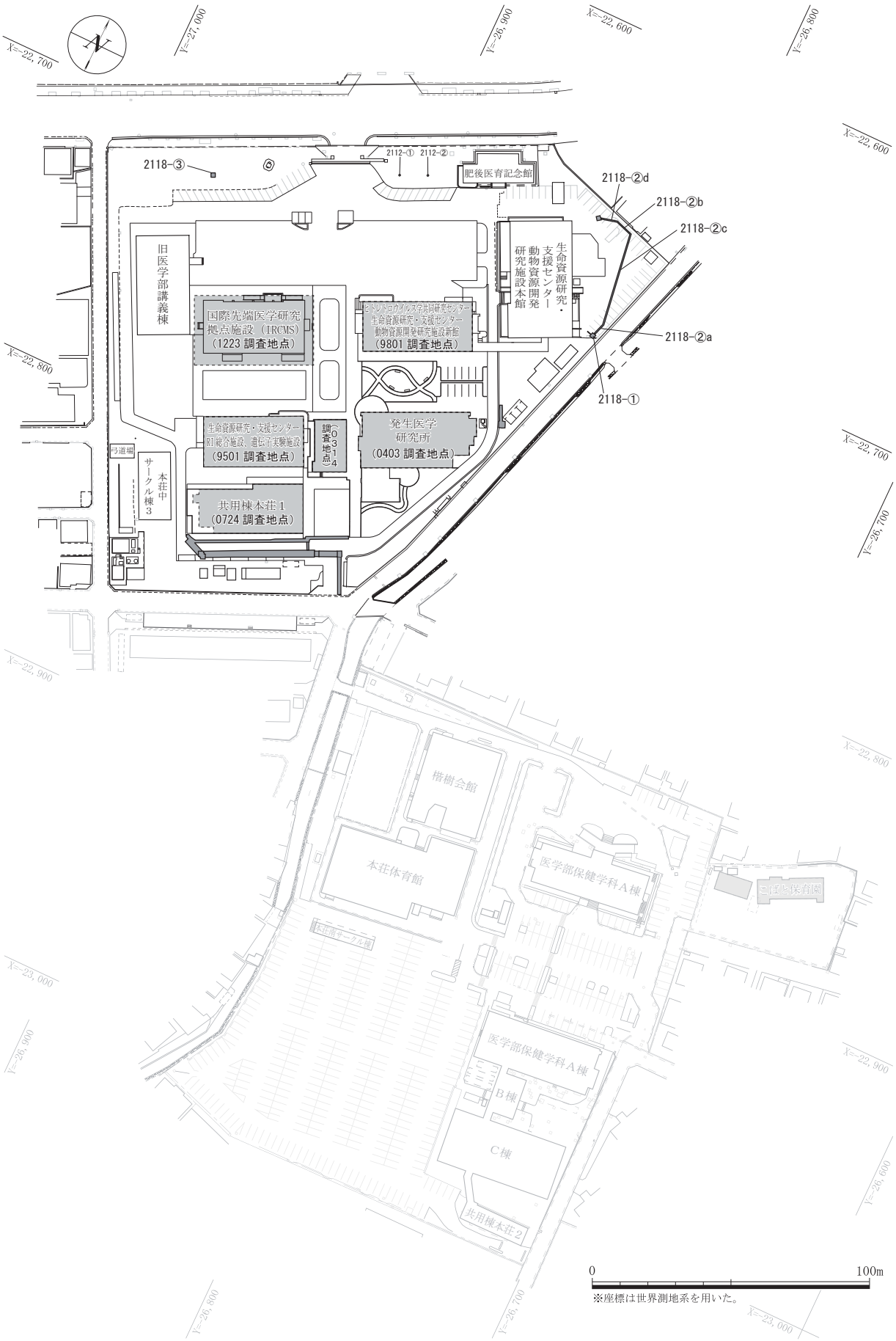


図７　本荘中地区における調査地点配置図（1/2000）

写真125　①調査区近景（西より）

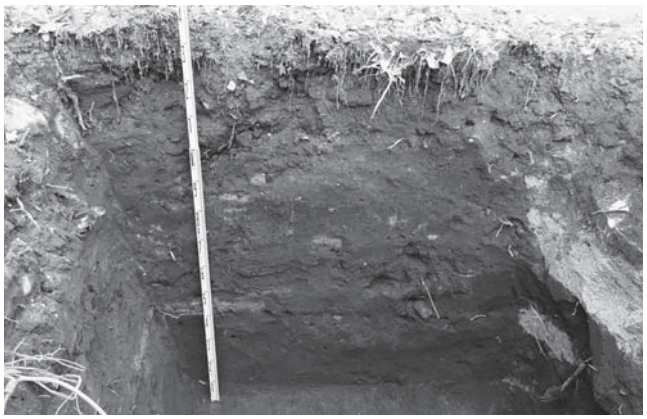


写真126　①土層断面（東より）

写真127　②ｃ作業風景（南東より）

写真128　②ｃ掘削完了状況（南より）

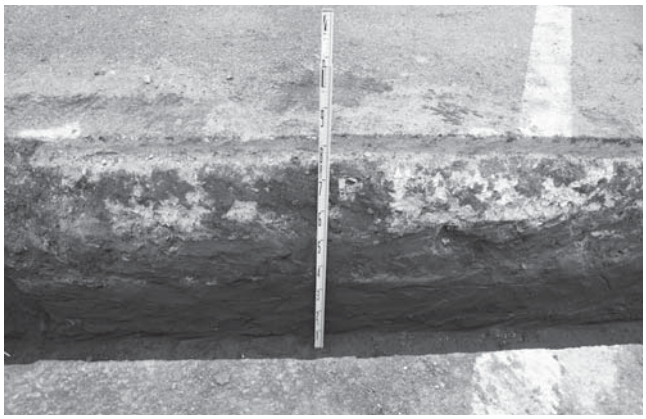


写真129　②ｃ土層断面（東より）

写真130　③土層断面（南より）

り上げ撤去した．確認した地山はいわゆる褐色砂層で，遺物は土師器・須恵器・陶磁器を数点出土している．

Ⅱ－６　本荘南地区

１．（本荘南）駐車場陥没補修工事に伴う工事立会（2101）

＜調査期間＞

2021年４月28日

＜調査面積＞

37.7（27.7）㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

本荘南地区の南西に位置する駐車場（Ａ地点）および医学部保健学科Ａ・Ｂ・Ｃ棟の西側（Ｂ地点）の路面陥没部分の工事に係る工事立会を実施した．本工事は緊急案件であったため，施設部から熊本市教育委員会文化財課へ連絡したところ，工事を優先させて，後日に埋蔵文化財保護法93条の書類を提出との指示が出された．Ａ地点の南西角付近には直径10㎝程の穴が認められ，その周囲3.0×6.0ｍの範囲のアスファルトがやや陥没していた．原因の解明と現場復旧のため南北7.5ｍ，東西3.5ｍの範囲のアスファルトをカッターで切り，地下の状況を確認した．その結果，掘削範囲の南北２か所に樹根が埋没しており，これが腐食したために陥没が生じ，路面の一部に穴があいたことが判明した．施設部と工事業者と現地で協議を行ない，原因となった樹根を撤去することになったため，当初予定の施工深度からの変更が生じた．そのため熊本市市民文化局文化財課に施工深度変更について連絡し，許可を得たうえで掘削を進めた．各樹根は直径30～40㎝程の幹で，周囲約1ｍに広がっていた．根は腐食していたためその周囲約2.5ｍを重機で地表下35㎝掘削して撤去することができた．掘削の際，周囲を精査したところ，地表下10㎝で混じりの少ない明暗褐色土層を検出した．抜根に関連して数㎝掘り下げたところ，近代とおもわれる陶磁器やガラスが出土した．本調査地点周囲が以前はグラウンドであったことから，整地土の可能性が考えられたが，その性格の解明は今後の課題である．

また，Ｂ地点についてもＡ地点と同様に直径10㎝程の穴が開いていたため，その周囲南北0.9ｍ，東西1.65㎝の範囲を試掘した．重機で地表下35㎝まで掘削した際，東側のＬ字側溝下に空洞が確認できた．この空洞が路面の穴の原因と判断できたため，埋め戻しの際に土を充填することとなった．本地点の掘削は全て現代埋土内におさまった．いずれの調査地点でも遺構は検出されなかったが，Ａ地点において近代と思しき甕や陶磁器の破片を取り上げた．

写真131　Ａ地点重機掘削作業風景（南西より）

写真132　Ａ地点掘削状況（南より）

写真133　Ｂ地点掘削状況（西より）

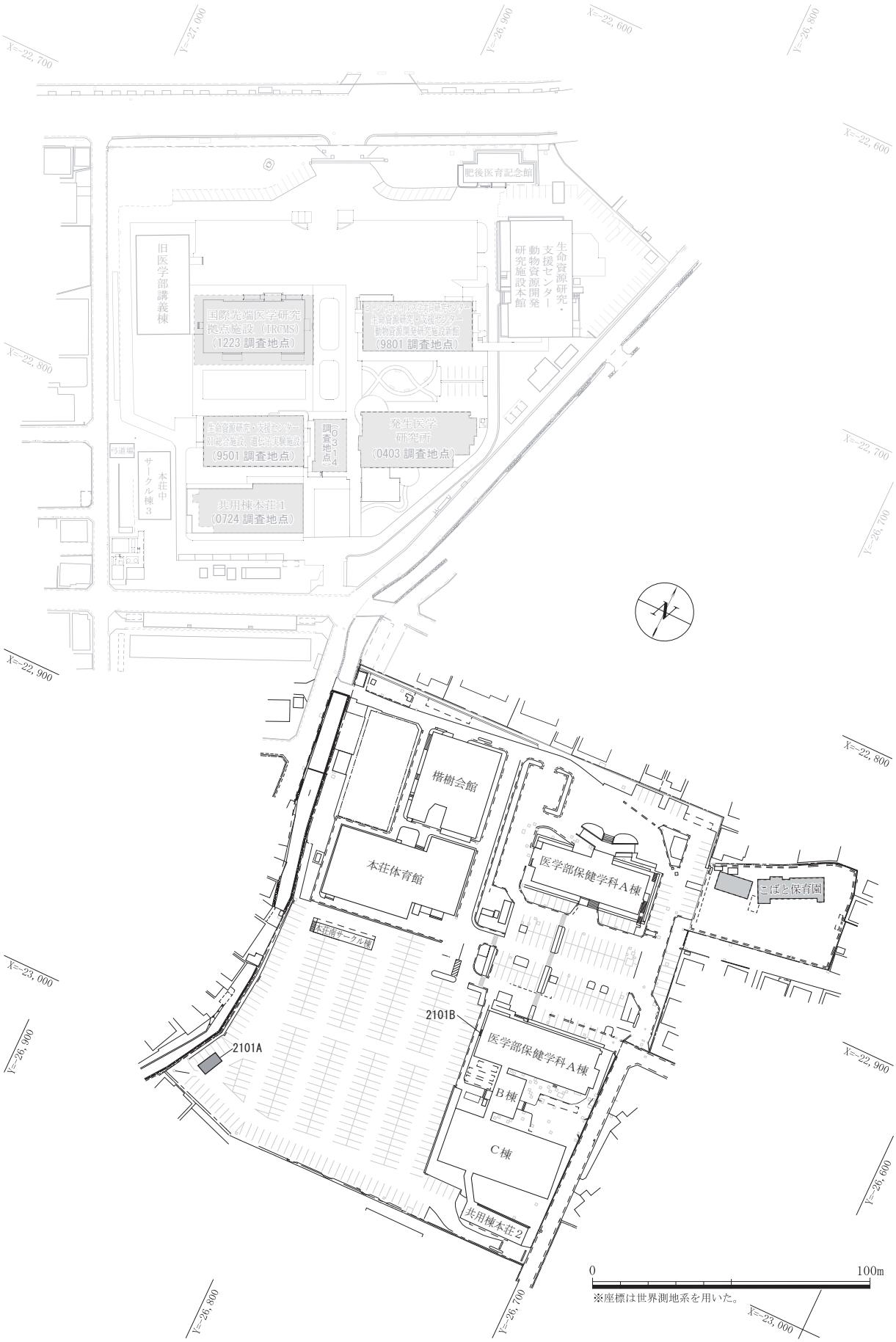


図８　本荘南地区における調査地点配置図（1/2000）

Ⅱ－７　大江地区

１．（大江北）熊本市都市計画事業（大江北）下水道築造工事に伴う工事立会（2104）

＜調査期間＞

2021年６月14日．７月26日．８月31日

＜調査面積＞

7.2㎡（自主立会），29.7（2.89）㎡

＜調査員＞

新里亮人，士野雄貴．

＜調査概要・結果＞

熊本市都市計画事業に伴う下水管敷設工事に係る案件で，薬学部正門側通路（薬専通り）については大学の敷地外に該当するため自主的な立会として対応した．

自主立会の実施日は６月14日で．対象工区では，アスファルトカットとバラスの除去後，人力による掘削と，既設管の検出作業が行われた．掘削深度が埋設時の掘方内に収まることを確認し，工事を許可した．

大学敷地分の工事について立会を実施した工区の①では，2.4×0.85mを掘削し，地表下0.3mで空襲による火災痕跡とみられる炭混じり焼土層，同0.53mで近代道路舗装面，同0.66mで近代整地層，同1.2mで黒褐色強粘質土層を検出した．同1.5mまで掘削したが遺構は確認されなかった．工区の②では，1.0×0.85mを掘削し，地表下0.42　mで近代道路舗装面，同0.45　mで近代整地層，同1.02～1.34mで黒褐色強粘質土層を検出した．同1.56mまで掘削したが遺構は確認されなかった．

遺物は，近代整地層から近世～近代陶磁器・ガラス片，黒褐色強粘質土層から時期不明の土器片が１点出土した．

写真134　自主立会地点掘削完了状況（東より）

写真135　①調査区近景（東より）

写真136 ①東半土層断面（北より）

２．（大江南他）防球ネット取設工事（大江団地南地区分）に伴う工事立会（2114）

＜調査期間＞

2022年１月20～21・24～25日

＜調査面積＞

368.2㎡

＜調査員＞

新里亮人．

＜調査概要・結果＞

薬学部グラウンド（野球場）内のバックネットおよび３塁側防球ネットの取設に伴う立会を実施した．結果は以下の通りである．

３塁側防球ネットの撤去作業では，コンクリート基礎間の掘削により，総掘りの設置工法が採用されていたことが確認された．基礎の吊り上げ撤去を実施するため，施工範囲の両長軸方向で１バケット幅分の掘削が行われた．慎重な掘り下げの結果，基礎の掘方外に遺物包含層が堆積している状況が確認されたため，その取扱いについて関係者間で協議を行なった．その結果，施工範囲内で確認された埋蔵文化財に影響がおよばないよう，掘削範囲をコンクリート基礎掘方の埋土内に限定し，当該基

図９　大江地区における調査地点配置図（1/2000）

写真137　グラウンド三塁側掘削完了状況（東より）

写真138　グラウンド三塁側遺物包含層検出状況（北より）

写真139　グラウンド三塁側掘削状況（南西より）

写真140　グラウンドバックネット側掘削完了状況（南より）

写真141　防球ネット基礎削岩作業風景（北より）

写真142　防球ネット基礎撤去作業風景（北より）

礎を削岩回収する工法に変更することで調整した．遺物包含層検出状況の写真記録後，３塁側防球ネットの基礎の撤去を許可した．

バックネット側については，掘削の結果，コンクリート基礎の掘方が確認され，つぼ堀の設置工法によることが明らかとなった．掘方間の堆積土を慎重に掘り下げた結果，バックネットの３塁方向の掘削工区では黒色土と赤褐色土層（地山）の堆積が確認されたが，遺構，遺物は検出されなかった．バックネット正面と１塁方向の掘削範囲では，近代遺物包含層の下位にマンガンを含みグライ化した黒灰色土層が厚く堆積する状況が確認され，付近の旧地形は水流を伴う谷地であった可能性が考えられた．赤褐色土の検出面で確認したところ，当土層の堆積方向は西南西に向かっており，隣接道路とほぼ並行していた．遺物の出土は確認できなかったため，写真撮影後，工事を許可した．コンクリート基礎の削岩・回収作業にも立ち合い，工区外へ掘削がおよんでいないことを確認して立会を終了した．

Ⅱ－８　京町地区

１．（大江南他）防球ネット取設工事（京町団地分）に伴う工事立会（2115）

＜調査期間＞

2022年１月27・28日，2月2日

＜調査面積＞

49.1（35.03）㎡

＜調査員＞

土野雄貴.

＜調査概要・結果＞

グラウンドの付帯設備である防球ネットやり替えのうち，京町地区における工事分である．既設基礎工撤去と新設基礎工設置からなり，撤去工事から着手した．工事箇所付近は附属中学校グラウンドの端部に位置しており，敷地外縁とグラウンドとでは地表高が異なる．掘削に際してはグラウンド側の地表面を基準とした．

①は2.8×2.9mを掘削した．地表下0.3mで地山と，帯状硬化面１を検出した．遺構埋土から近世～近代陶磁器片を出土している．

②は2.2×2.2mを掘削し，同0.3m～0.4mで地山と，溝状遺構２を検出した．遺構埋土から土師器・須恵器片に加え，後述する⑥から陶磁器片を出土している．

③は2.4×2.3mを掘削し，同0.4mで地山を検出した．遺構・遺物の検出はなかった．

④は2.8×2.3mを掘削し，同0.4mで遺物包含層，同0.5～0.6mで地山を検出した．遺物包含層は黒褐色強粘質土で，古代の土師器・須恵器を数点出土している．遺構の検出はなかった．

⑤は2.9×1.9mを掘削し，同0.9mで地山を検出した．遺構・遺物の検出はなかった．

新設基礎工設置箇所は，同0.45～0.5mの掘削である．①～⑤の成果を踏まえ，６箇所のうち３箇所について工事立会を実施した．

②とほぼ重複する⑥は，僅かにはみ出る1.3×0.3mを掘削し，②既確認の遺構を同0.4mで検出した．掘削は遺構埋土内におさまる．

③と接する⑦は1.4×1.6mを掘削し，地表下0.4mで地山を検出した．遺構・遺物の検出はなかった．

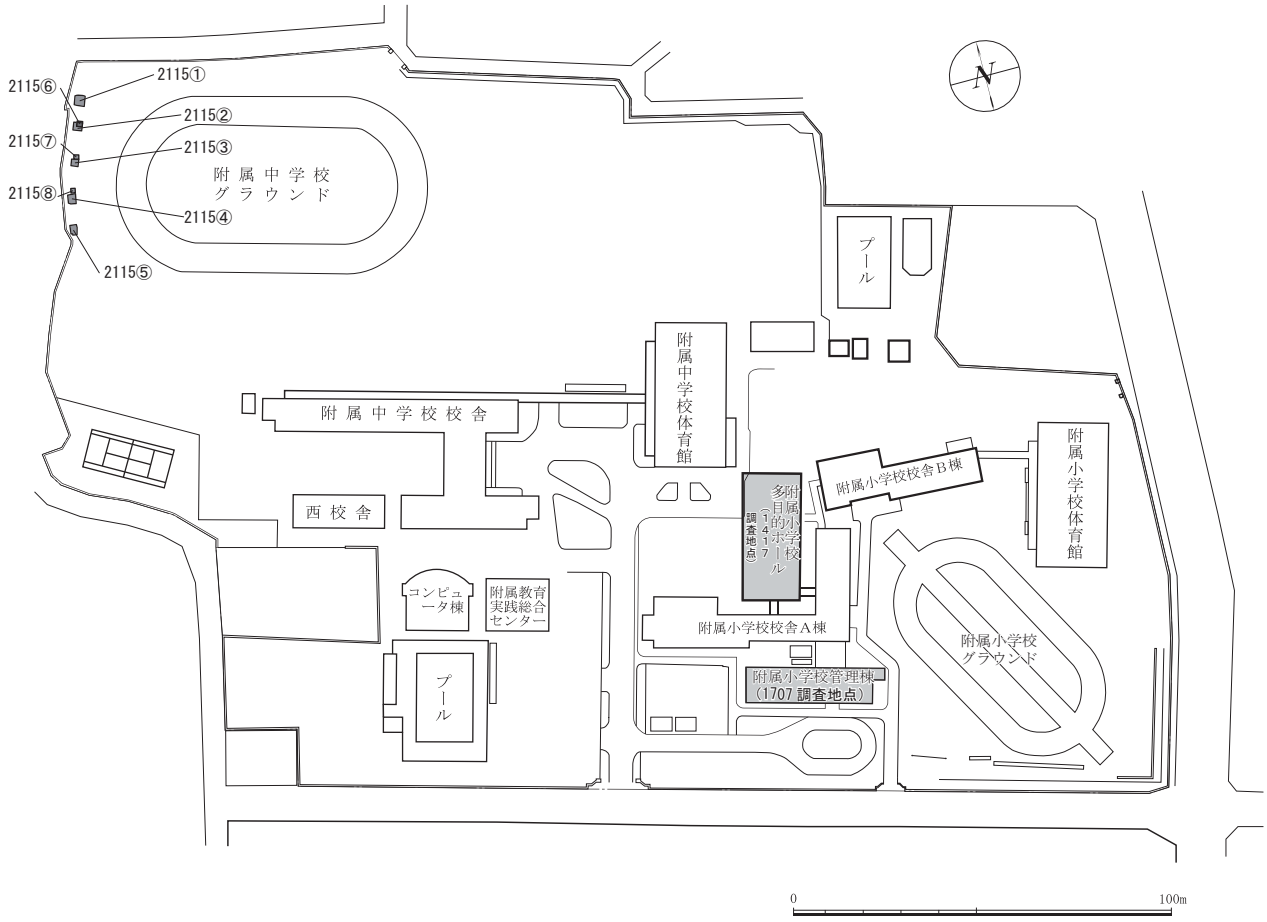


図10　京町地区における調査地点配置図（1/2000）

写真143　調査区近景（北より）

写真144　①帯状硬化面完掘状況（南西より）

写真145　②溝状遺構完掘状況（東より）

⑧は1.6×1.6mを同0.5m掘削し，④既確認の遺物包含層を検出した．遺物は出土していない．

確認した地山は，①および②の遺構下端付近ではいわゆるローム，③⑤⑦ではいわゆるニガ土，④では暗褐色強粘質土であった．

Ⅱ－９　益城地区

１．（益城）地域共同ラボラトリー実験用テント撤去に伴う立会調査（2123）

＜調査期間＞

2022年３月14日，17日，25日

＜調査面積＞

299.7㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

本工事は，益城町所在の益城共同ラボラトリーの敷地内にある海洋水理実験水槽設備を撤去する工事である．当初は覆い屋の撤去という計画であったが，地下に埋設されている水槽設備もすべて撤去することになった．

本敷地は，周知の埋蔵文化財包蔵地（以下「包蔵地」）ではないが，包蔵地と包蔵地の間に位置するため，念のため自主立会とした．

水槽は東西20.7m，南北8.2mのプール状で，東西両端に幅3.15m，東西両端には幅1.4mで，厚さ0.3mのコンクリート土間が巡っている．解体はハサミ状の重機で割り取る方法を基本とした．水槽は平均で深さ１m程度で，撤去では1.3～1.5m掘削した．設備の関係上一部約２m近く掘削したが，全て埋土であった．地表下1.3m程度で，黄色の火山灰土が検出されるが，この土層は造成時に削平したものである．

これまでの立会および今回の立会の結果から，敷地の地域共同研究センターの建物より西部は，地表下２m程度までは造成土と考えられる．

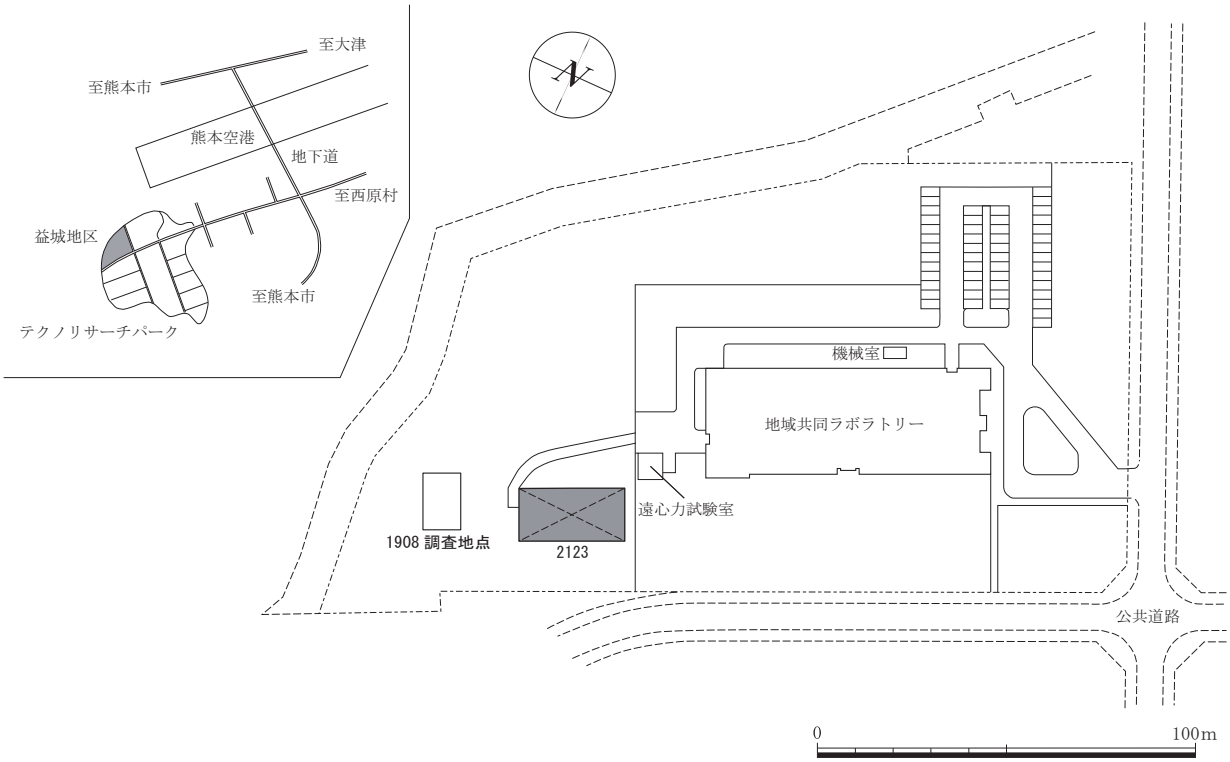


図11　益城地区における調査地点配置図（1/2000）

写真146　作業風景（東北東より）

写真148　南壁側の底盤除去状況（北北西より）

写真147　水槽埋設状況（西南西より）

写真149　西壁側の底盤除去状況（東北東より）

第Ⅲ章　活用事業およびその他の関連業務

新型コロナウイルスの猛威は続いており，埋蔵文化財調査センターの活用事業は本年度も大きな影響を受けた．本センターの展示室については，前年度の５月28日より通常再開しているが．企画展示については，昨年度と同様，開催を見送った．しかしながら，動画配信や学内刊行物への取材対応など，埋蔵文化財の活用に資する非対面の業務についてはこれまで以上に積極的に推進し，今後も継続することを本センター会議内で決定した．

以下，活用事業およびその他の関連業務の概要についてまとめる．

１．熊本大学 Web オープンキャンパス2021にて動画配信

2021オープンキャンパスがオンライン開催となったため，昨年度より公開している本センターおよびキャンパス内の遺跡紹介動画『遺跡の上の熊本大学①・②・③』のリンク先を提供した．

２．『熊大通信』への取材協力

本学定期刊行物『熊大通信』vol.82，３～10頁掲載の特集Ⅰ『歴史を今に「つなぐ」遺跡の上の熊本大学』への取材協力を行い，写真素材等を提供した．内容は下記リンク先より閲覧できるので参照されたい．

https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kouhou/kouhoushi/kumatu/vol_82-file/kt82_all.pdf

３．キャンパスミュージアム構想への参画

６月１日付けで本センター教員１名が本学キャンパスミュージアム構想準備室（令和３年12月１日よりキャンパスミュージアム構想推進室に改称）の室員に委嘱され，本学が独自に掲げる構想の策定に向けた各種業務に従事することとなった．熊本大学キャンパスミュージアム構想とは，本学が保有する国指定重要文化財（建造物）を核としてキャンパス全体のミュージアム化を図るとともに，各研究センターなどが連携して所蔵する文化財，学

図12　『熊大通信』vol.82掲載記事見本

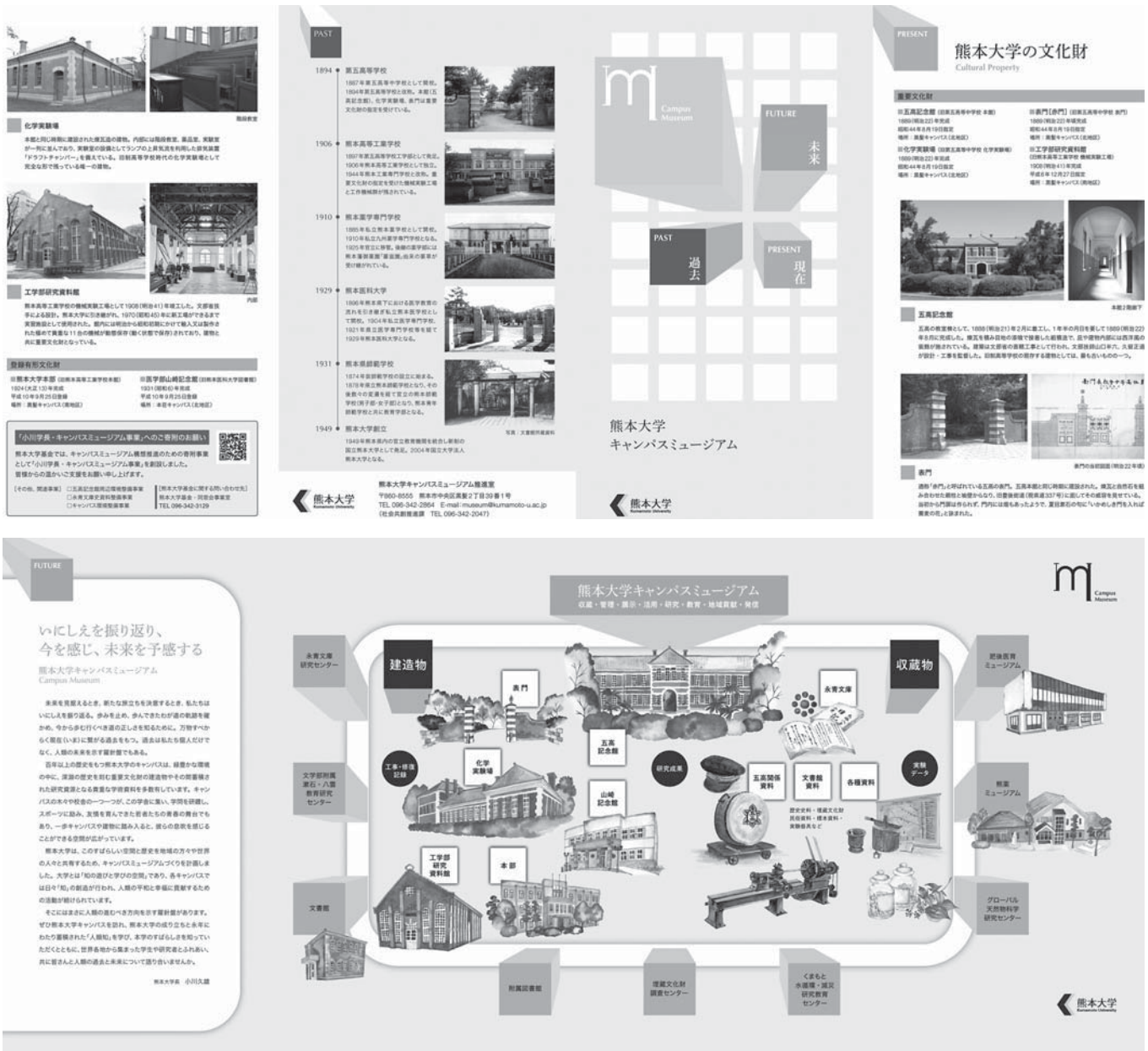


図13　熊本大学キャンパスミュージアム構想のパンフレット見本

術資料，研究成果，作品などを教育・研究に活かし，広く公開・発信する「開かれた大学」づくりを目指して策定されるものとされる．

埋蔵文化財調査センターも本構想への参画を要請されており，発足以来蓄積されてきた発掘調査の成果をこれまで以上に広く普及・活用していくことが求められることになった．今後，関連機関との連携により構想の実現に向けた各種取り組みを実施していきたい．

4．「五高記念館等オープニングセレモニー」公開動画作成への資料提供

キャンパスミュージアム推進室による事業の一環で重要文化財の復旧工事を紹介する動画の作成が計画され，その素材として本センターで所蔵する写真（赤レンガの崩落状況および崩落レンガの調査状況）を同推進室へと提供した．また，撮影に当たっては，本センター教員がシナリオを作成し，五高記念館長および工事の施工管理者である公益財団法人文化財建造物保存技術協会担当者へのインタビューアーを務めた．

完成した動画は2022（令和４）年３月23日，重要文化財の災害復旧工事完了を記念した「五高記念館等オープニングセレモニー」にて参加者に向けに披露された．本動画は，キャンパスミュージアム推進室のホームページにて近日中に一般公開される予定である．

Summary

In fiscal year 2021, the research center for buried cultural properties at Kumamoto University attended 27 development construction and obtained the following archaeological achievements: In a survey due to restoration work on historic buildings at Kurokami area damaged by the April 2016 Kumamoto earthquake, traces of ground leveling work related to the building's construction and part of brick boiler facilities were identified. In the Uruge area, a distribution map of the tunnel tomb at Kofun period was created for protecting these from the installation of sediment run-off prevention nets. Excavations investigation also unearthed relics from the Medieval Age, revealing how long this site would last. Structural remnants and inclusion layers of ancient era have also been found in surveys of the Honjō and Ōe districts. Archaeological surveys related to the Kumamoto earthquake was completed in five years. The restoration work of all the historic buildings was also completed, and a ceremony was held to mark the completion on March 23, 2022. We will actively communicate the archaeological achievements of these historic buildings that we have accumulated through our research.

2021 년도 , 구마모토대학 매장문화재조사센터에서는 27 건의 개발공사에 입회하여 다음과 같은 고고학적 성과를 얻었다 .

구로카미 북・남지구에서는 , 2016（헤이세이 28）년 4 월에 일어난 구마모토지진으로 큰 피해를 입은 국가지정 중요문화재（건조물）의 복구 공사와 관련된 조사에서 건물 건설에 관련한 토목공사 흔적과 관련 설비가 일부 확인되었다 . 우루개지구（宇留毛地区）에서는 , 토사 유출방지 네트 설치공사로 부터 고분시대의 횡혈묘를 보호하기 위해 유구 분포도를 작성했다 . 또한 시굴조사에서 중세 유물들이 출토되어 유적 존속시대가 분명해 졌다 . 혼죠지구와 오오에지구 조사에서도 고대의 유구와 포함층이 발견되었다 .

구마모토지진과 관련된 매장문화재조사는 5 년의 세월에 걸쳐 모두 완료되었다 . 역사적 건조물의 복구 공사도 완공되어 2022 년 3 월 23 일에 준공을 기념하는 세레모니가 개최되었다 . 지금까지 축적해 온 근대 건조물의 고고학적 조사 성과를 적극적으로 공개해 나가기 위해 본 센터는 앞으로도 계속 노력해 나가고자한다 .

付篇１　熊本大学埋蔵文化財調査センター規則（R2.2.28～）

（趣旨）
第１条　この規則は，熊本大学学則（平成16年４月１日制定）第９条第２項の規定に基づき，熊本大学埋蔵文化財調査センター（以下「センター」という.）に関し必要な事項を定める.
（設置目的）
第２条　センターは，熊本大学（以下「本学」という.）に所在する遺跡を発掘調査するとともに，出土した埋蔵文化財を記録，研究，保存及び活用し，もって本学の教育研究に寄与することを目的とする.
（業務）
第３条　センターは，次に掲げる業務を行う.
⑴　埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施に関すること.
⑵　出土した埋蔵文化財の整理・研究，保管及び保存に関すること.
⑶　文化庁等に提出する報告書の作成に関すること.
⑷　埋蔵文化財に係る考古学的知見等に基づく教育に関すること.
⑸　その他センターの目的を達成するために必要な事項
（職員）
第４条　センターに，次に掲げる職員を置く.
⑴　センター長
⑵　専任教員
⑶　その他必要な職員
（センター長）
第５条　センター長の選考は，本学の専任の教授のうちから，第７条に規定する委員会の推薦を受けて，学長が行う.
２　センター長は，センターの業務を掌理する.
３　センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない.
４　センター長に欠員が生じた場合の補欠のセンター長の任期は，前項の規定にかかわらず，前任者の残任期間とする.
（専任教員）
第６条　専任教員の選考は，熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会の意見を聴いて，学長が行う.
２　専任教員の選考に関し必要な事項は，別に定める.
（委員会の設置）
第７条　センターの管理運営に関する事項を審議するため，熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会（以下「委員会」という.）を置く.
（委員会の組織）
第８条　委員会は，次に掲げる委員をもって組織する.
⑴　センター長
⑵　センターの専任教員
⑶　大学院教育学研究科から選出された教授又は准教授　１人
⑷　大学院人文社会科学研究部から選出された教授又は准教授　２人
⑸　大学院先端科学研究部から選出された教授又は准教授　２人
⑹　大学院生命科学研究部の医学系又は病院から選出された教授又は准教授　１人
⑺　大学院生命科学研究部の保健学系及び薬学系から選出された教授又は准教授　各１人
⑻　発生医学研究所，生命資源研究・支援センター又はヒトレトロウイルス学共同研究センターから選出された教授又は准教授　１人
⑼　施設部施設管理課長
⑽　その他センター長が必要と認めた者　若干人
２　前項第３号から第８号まで及び第10号の委員は，学長が委嘱する.
３　第１項第３号から第８号までの委員の任期は，２年とし，再任を妨げない.
４　第１項第３号から第８号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は，前項の規定にかかわらず，前任者の残任期間とする.
５　第１項第10号の委員の任期は，学長が委嘱の都度定めるものとし，再任を妨げない.

（委員会の審議事項）
第９条　委員会は，センターに関する次に掲げる事項（熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則（平成16年４月１日制定）第３条に定める事項を除く.）を審議する.
⑴　センターの業務に関すること.
⑵　センター長候補者の推薦に関すること.
⑶　施設及び予算に関すること.
⑷　その他センターの管理運営に関すること.
（委員長）
第10条　委員会に，委員長を置き，センター長をもって充てる.
２　委員長は，委員会を招集し，その議長となる.
３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する.
（議事）
第11条　委員会は，委員の過半数が出席しなければ，議事を開き，議決をすることができない.
２　委員会の議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる.
（意見の聴取）
第12条　委員長は，必要があるときは，委員以外の者を委員会に出席させ，意見を聴くことができる.
（事務）
第13条　センター及び委員会の事務は，施設部施設企画課において処理する.
（雑則）
第14条　この規則に定めるもののほか，センターの運営に関し必要な事項は，センター長が別に定める.
附　則
１　この規則は，平成23年10月１日から施行する.
２　国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則（平成16年４月１日制定）及び熊本大学埋蔵文化財調査室要項（平成16年４月１日制定）は，廃止する.
３　この規則施行後，最初に任命されるセンター長は，第５条第１項の規定にかかわらず，この規則により選考されたものとみなす.
４　この規則施行後，最初に任命されるセンター長の任期は，第５条第３項の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする.
５　この規則施行後，最初に委嘱される第８条第１項第３号及び第４号の委員の任期は，同条第３項の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする.

附　則（平成24年12月27日規則第142号）
この規則は，平成25年４月１日から施行する.
附　則（平成27年３月13日規則第94号
この規則は，平成27年４月１日から施行する.
附　則（平成28年２月５日規則第９号）
この規則は，平成28年４月１日から施行する.
附　則（平成28年３月１日規則第30号）
この規則は，平成28年４月１日から施行する.
附　則（平成28年９月23日規則第404号）
この規則は，平成28年９月23日から施行する.
附　則（平成29年３月31日規則第153号）
この規則は，平成29年４月１日から施行する.
附　則（平成30年３月22日規則第177号）
この規則は，平成30年４月１日から施行する.
附　則（平成31年３月28日規則第264号）
この規則は，平成31年４月１日から施行する.
附　則（令和２年２月28日規則第14号）
この規則は，令和２年２月28日から施行する.

付篇２　2021年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

１　埋蔵文化財調査センター組織

＜センター長＞	（併・大学院人文社会科学研究部教授）	新井　英永（2021.4.1～）
＜専任教員＞		大坪　志子
		新里　亮人
		山野　ケン陽次郎
＜技術補佐員＞	（2021年４月～2022年３月）	士野　雄貴
＜事務補佐員＞	（2021年４月～2022年３月）	植田　裕子
＜室内作業員＞	（2021年４月～2021年９月）	小山　正子
	（2021年４月～2022年３月）	江口　　路
		鬼塚　美枝
		首藤　優子
		末吉　美紀
		園田　智子
		濱﨑　清子
		増井　弘子
	（2021年10月～2022年３月）	井上　裕美

２　埋蔵文化財調査センター運営委員会

委員長	新井　英永	（埋蔵文化財調査センター長）	
委　員	中尾健一郎	（大学院人文社会科学研究部教授）	任期（2021.4.1～2023.3.31）
	小畑　弘己	（大学院人文社会科学研究部教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	渡部　　薫	（大学院人文社会科学研究部教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	望月　伸竜	（大学院先端科学研究部准教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	村上　　聖	（大学院先端科学研究部教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	福田　孝一	（大学院生命科学研究部医学系教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	米田　哲也	（大学院生命科学研究部保健学系准教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	杉村　康司	（大学院生命科学研究部薬学系准教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	日野信次朗	（発生医学研究所准教授）	（2021.4.1～2023.3.31）
	田鍋　和仁	（施設部施設管理課長）	（2021.4.1～2021.4.30）
	嶋津　高雅	（施設部施設管理課長）	（2021.5.1～）
	大坪　志子	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	
	新里　亮人	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	
	山野ケン陽次郎	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	

３　令和３年度埋蔵文化財調査センター運営委員会　審議事項

第１回（2021年５月24日）

報告

１）令和２年度埋蔵文化財発掘調査結果一覧について
２）令和２年度埋蔵文化財調査センター予算の支出実績について
３）事務補佐員の雇用期限撤廃について
４）その他

議題

１）令和３年度埋蔵文化財包蔵地における土木工事予定一覧について
２）文学部考古学分野による構内遺跡の学術調査について
３）令和３年度埋蔵文化財調査センター予算配分（案）について
４）構内遺跡調査における出土資料の収蔵スペース確保について
５）その他

付篇３　熊本大学埋蔵文化財調査センター2021年度調査・研究活動記録

大坪志子

＜論文等＞

・「国府遺跡出土玦状耳飾の研究」『古代学研究』第229号，古代学研究会，pp.1-13.
・『三万田東原遺跡の研究　―縄文時代後期後葉の石製装身具製作遺跡―』　平成29～令和３年度科学研究費補助金　基盤研究（Ｂ）研究成果報告書　研究代表者：大坪志子　熊本大学埋蔵文化財調査センター　131pp.
・『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』27，熊本大学埋蔵文化財調査センター（共著：大坪志子・新里亮人・山野ケン陽次郎・士野雄貴）

＜科学研究費＞

・『九州縄文時代後晩期における玉と縄文文化の実証的研究』平成29～令和２年度科学研究費補助金　基盤研究（B）（研究代表者）.

＜その他＞

・「石材からわかる九州縄文時代・弥生時代の玉文化」令和3年度福岡市埋蔵文化財センター考古学講座第６回講師（2021年11月13日　福岡市埋蔵文化財センター）.
・長崎県佐々町狸山遺跡出土大珠の評価
・長崎県原の辻遺跡調査指導委員会（2020年12月２日　長崎県埋蔵文化財センター）.
・八代市文化財保護委員会（第１回：書面会議，第２回：2022年３月７日　八代市役所）

新里亮人

＜論文等＞

・新里亮人　2021 書評 高宮広土著『奇跡の島々の先史学－琉球列島先史・原史時代の島嶼文明』沖縄タイムス（2021年（令和３年）５月29日 朝刊）
・J. H. Sterba, M. Shinoto, A. Shinzato, M. Enomoto, Y. Yomine. 2021. Provenancing of pottery from Kamuiyaki Site in East Asia by neutron activation analysis, Archaeometry 63(3)500-515
・SHINZATO Akito. 2021. New technology for elucidating archaeological sites（land edition), OCCATIONAL PAPERS 62 7-8
・SHINZATO Akito. 2021. New technology for elucidating archaeological sites（seabed edition), OCCATIONAL PAPERS 62 9-10
・SHINZATO Akito. 2021. Archaeology on the Eve of the Establishment of the Ryukyu State, JAPANESE JOURNAL of ARCHAEOLOGY Volume 9(Number 1）35-83
・Aleksandra Jarosz, Martine Robbeets, Ricardo Fernandes, Hiroto Takamiya, Akito Shinzato, Naoko Nakamura, Maria Shinoto, Mark Hudson. 2022. Demography, trade and state power: a tripartite model of medieval farming/language dispersals in the Ryukyu Islands, Evolutionary Human Sciences 4
・新里亮人（編）　2022『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報 27』熊本大学埋蔵文化財調査センター
・赤司善彦・池田榮史・近江俊秀・木村淳・坂井秀弥・佐々木蘭貞・新里亮人・鈴木一有・芝康次郎・禰冝田佳男・藤井幸司・柳田明進・吉田東明・脇谷草一　2022　文化庁文化財第二課（編）2022『水中遺跡ハンドブック』文化庁文化財第二課

＜科学研究費＞

・『琉球列島農耕伝播経路解明に向けた考古学的研究』令和２～６年度科学研究費補助金　基盤研究（C）（研究代表者）.

＜その他＞

・第７回水中遺跡調査検討委員会（第２期）及び第13回水中遺跡調査検討委員会協力者会議合同会議（2021年６月16日，オンライン開催）
・令和３年度第１回和泊町のあゆみ編さん委員会（2021年７月21日，於：和泊町役場１階結いホール，オンライン参加）

・第14回水中遺跡調査検討委員会協力者会議（2021年８月４・５日，於：九州国立博物館，オンライン参加）
・「文化の窓口－奄美－」『第60回記念 黎明館企画特別展 ほこらしゃ奄美 記念講演会』講師（2021年10月16日）
・令和３年度第２回和泊町の歩み編さん委員会（2021年10月22日，於：和泊町役場２階会議室，オンライン参加）
・第８回水中遺跡調査検討委員会（第２期）及び第15回水中遺跡調査検討委員会協力者会議（2021年12月15日，於：文部科学省東館３Ｆ１会議室）
・令和３年度第３回和泊町の歩み編さん委員会（2022 １月21日，於：和泊町役場１階　結いホール，オンライン参加）
・第９回水中遺跡調査検討委員会（第２期）及び第16回水中遺跡調査検討委員会協力者会議（2022年３月９日，於：文部科学省東館３Ｆ１会議室）
・「石鍋からみた九州と琉球列島」『岡山大学埋蔵文化財調査研究センター公開講座 考古学と関連科学 第15回 高級調理具「石鍋」からみた古代・中世』講師（2022年1月22日）
・「奄美のグスクを考える」『第13回 葬墓制からみた琉球史研究会』口頭発表（2022年2月26日）
・第１回伊仙町誌「先史・原史時代部会」（2022年３月８日，於：伊仙町誌編纂室，オンライン参加）
・「考古学から琉球列島史を探る」NHK 文化センター柏教室 NHK カルチャー柏 講師（2021年７月20日，８月17日，９月21日，10月19日，11月16日，12月21日，オンライン開催）

山野ケン陽次郎

＜論文等＞

・小野林太郎・山野ケン陽次郎・片岡修・Jason Barnabas・長岡拓也・片桐千亜紀・山極海嗣　2021「東ミクロネシアにおける人類の移住年代と貝利用－ポーンペイ島での最近の発掘成果より」『東南アジア考古学』（41）pp.57-72 2022年２月.
・Martine Robbeets, Remco Bouckaert, Matthew Conte, Alexander Savelyev, Tao Li, Deog-Im An, Ken-ichi Shinoda, Yinqiu Cui, Takamune Kawashima, Geonyoung Kim, Junzo Uchiyama, Joanna Dolinska, Sofia Oskolskaya, Ken-Yojiro Yamano, Noriko Seguchi, Hirotaka Tomita, Hiroto Takamiya, Hideaki Kanzawa-Kiriyama, Hiroki Oota, Hajime Ishida, Ryosuke Kimura, Takehiro Sato, Jae-Hyun Kim, Bingcong Deng, Rasmus Bjorn, Seongha Rhee, Kyou-Dong Ahn, Ilya Gruntov, Olga Mazo, John R. Bentley, Ricardo Fernandes, Patrick Roberts, Ilona R. Bausch, Linda Gilaizeau, Minoru Yoneda, Mitsugu Kugai, Raffaela A. Bianco, Fan Zhang, Marie Himmel, Mark J. Hudson, Chao Ning. 2021. Triangulation supports agricultural spread of the Transeurasian languages, *NATURE 599*（7886）616, 2021年11月
・山野ケン陽次郎　2021 「43 熊本県」『日本考古学年報』73 pp.207-211 2021年11月
・山野ケン陽次郎　2021 「しまめぐり」『季刊誌 Yaponesian』第３巻ふゆ号　pp.54-57 2022年３月
・『先史マリアナ諸島における貝製品の研究』 熊本大学埋蔵文化財調査センター　2017～2021年度日本学術振興会科学研究費（若手研究（B））課題番号17K13565「先史時代におけるマリアナ諸島の貝類利用の考古学的研究」研究成果報告書 （編集：山野ケン陽次郎） 2022年３月

＜科学研究費＞

・「先史時代におけるマリアナ諸島の貝類利用の考古学的研究」 独立行政法人日本学術振興会：平成29年度科学研究費助成事業　若手研究（Ｂ）研究期間：2017年４月－2022年３月（研究代表者）
・「オセアニアの人類移住と島嶼間ネットワークに関わる考古学的研究」 独立行政法人日本学術振興会：平成30年度科学研究費助成事業　国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（Ｂ） 研究期間：2018年４月－2022年３月 （研究分担者：山野ケン陽次郎，研究代表者：小野林太郎）

＜その他＞

・山野ケン陽次郎 『熊本大学構内遺跡黒髪南地区1310調査地点の調査成果』 熊本大学文学部考古学実習　於：熊本大学文学部Ａ３教室　2021年８月４日

報告書抄録

ふ り が な	くまもとだいがくまいぞうぶんかざいちょうさせんたーねんぽう　28
書　　名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　28
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報
シリーズ号	28
編 著 者 名	新井英永・大坪志子・士野雄貴・新里亮人・山野ケン陽次郎
編 集 機 関	熊本大学埋蔵文化財調査センター
所 在 地	〒860-8555　熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1　TEL：096-342-3832　FAX：096-342-3832
発行年月日	2023年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
黒髪町遺跡群 （1823地点）	熊本県 熊本市 黒髪	431010	597	32° 48′ 47″	130° 43′ 46″	20211021	888.16㎡	学校敷地内の復興事業に伴う
宇留毛小磧橋際横穴群 （1904地点）	熊本県 熊本市 宇留毛	431010	606	32° 49′ 06″	130° 44′ 34″	20210419 ～ 20210629	55.57㎡	災害復旧工事に伴う
本庄遺跡 （1904地点）	熊本県 熊本市 本荘	431010	660	32° 47′ 44″	130° 42′ 42″	20190708 ～ 20210428	6231.1㎡	病院敷地内の開発事業に伴う
大江遺跡 （2114地点）	熊本県 熊本市 大江	431010	648	32° 47′ 39″	130° 43′ 17″	20220120～ 20220125	368.2㎡	学校敷地のの開発事業に伴う

※北緯・東経の数値は世界測地系に基づく値です

所収遺跡	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
黒髪町遺跡群 （1823地点）	集落址 近代構造物	古代・近世・近代	旧ボイラー	煉瓦	工学部研究資料館
宇留毛小磧橋際横穴群 （2102地点）	埋葬址	古墳・中世・近代	横穴墓・溝・ピット・防空壕	土師器・須恵器・瓦質土器・青磁・鉄器	
本庄遺跡 （1904地点）	集落址	古代・近世	溝・土杭・ピット	須恵器・土師器	
大江遺跡群 （2114地点）	集落址	古代・近世	溝・硬化面	土師器・須恵器・陶磁器	

要 約

2021（令和３）年度調査の内訳は，発掘調査０件，工事立会 27件（黒髪北・南地区，宇留毛地区，本荘北・中・南地区，大江地区，京町地区，益城地区）であった．主な調査成果は以下の通りである．

黒髪北・南地区における1823・2015調査地点は，2016（平成28）年４月の熊本地震により大きな被害を受けた国指定重要文化財（建造物）の復旧工事の工区内に当たり，1823調査地点では，熊本工業高等学校機械実験工場の北側に設置されていたボイラー煙道の一部，2015調査地点では，旧第五高等中学校本館の竣工当時の整地面と推定される敷石遺構が確認された．熊本地震からの復旧に伴う埋蔵文化財の調査は今年度ですべて完了し，2022年３月23日，五高記念館，化学実験場，工学部研究資料館は無事に竣工の日を迎えた．

宇留毛地区における2012調査地点は令和２年７月豪雨による法面崩落の災害復旧工事を原因とするもので，工事の事前に横穴墓の分布図を作成した．また，試掘調査では中世の遺物が出土し，遺跡の年代が古墳時代以降にもおよぶことが明らかとなった．

本荘北地区の1904調査地点では，ピット等が検出され，病院敷地南縁の緑地帯下に遺構面が残存している状況が確認された．

大江地区と京町地区では薬学部および附属中学校グラウンドの防球ネット取設工事が実施され，両者ともに遺物包含層の堆積が確認された．

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報28
―2021年度―

令和５年３月29日　　印刷
令和５年３月31日　　発行

編集兼発行者　　熊本大学埋蔵文化財調査センター
熊本市中央区黒髪２－39－１
電話　096－342－3832
印刷所　　シモダ印刷株式会社

Published by
Research Center for Buried Cultural Properties,
Kumamoto University
Kumamoto, 2023